

# 男女共同参画社会・女性活躍推進 に関するアンケート集計結果

令和2年10月  
宇治田原町

## 〈 目 次 〉

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	基本的事項	2
2	男女平等に関する意識について	7
3	男性・女性の活躍社会について	16
	女性のリーダーを増やすことについての障害について	16
	男性が家事・育児を行うことに対するイメージ	17
	男性が仕事以外の生活を重視した働き方をすることについて	18
	育児・介護と仕事の両立を推進するために両性にとって必要なこと	19
4	結婚や職業など生活全般について	21
	①夫は働き妻が家庭を守るという古典的性別分業観への考え方	22
	②結婚についての考え方	23
	③離婚についての考え方	24
	④男性の家事・育児参加の考え方	25
	⑤自身のワークライフバランスの実現度	26
	職業・職場における男女間不平等など	27
	結婚・出産後の就労・退職についての満足度	28
	女性の就労についての考え方	29
	家庭における家事の分担	30
	家事の分担の満足度	31
5	人権について	32
	セクシャル・ハラスメントの経験など	32
	セクシャル・ハラスメントの発生原因	33
	ドメスティック・バイオレンスの経験など	34
	女性の人権を守るために必要なこと	35
6	男女共同参画のまちづくりについて	36
7	自由意見	39

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

平成22年度に策定した「宇治田原町男女共同参画計画～新しいいきさわかプラン～」に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、種々の施策に取り組んでいるところですが、本アンケートにおいて住民の現状や意識、ニーズ等を把握し、今後の本町男女共同参画施策を検討するための基礎資料とします。

## 2 調査の方法

(1) 調査対象

20歳以上の住民から500人(男女各250人)を無作為抽出

(2) 調査方法

郵送による配布、回収

(3) 調査期間

令和2年7月17日～令和2年9月7日

## 3 回収状況

標本数 500件    有効回収数 224件    有効回収率 44.8%

<参考>

平成26年8月実施

標本数 250件    有効回収数 115件    有効回収率 46.0%

平成28年8月実施

標本数 250件    有効回収数 118件    有効回収率 47.2%

平成30年11月実施

標本数 250件    有効回収数 98件    有効回収率 39.2%

※留意事項

- 回答結果は小数点第二位以下を四捨五入しています。このため単数回答においては内訳の合計値が100.0%にならない場合があります。
- 各項目の有効回答数で計算しています。このため全体の回答数と性別または年代別の回答数の合計値が異なる場合があります。

## Ⅱ 調査の結果

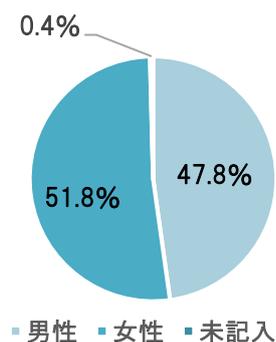
### 1 基本的事項

#### (1) 性別

あなたの性別は。

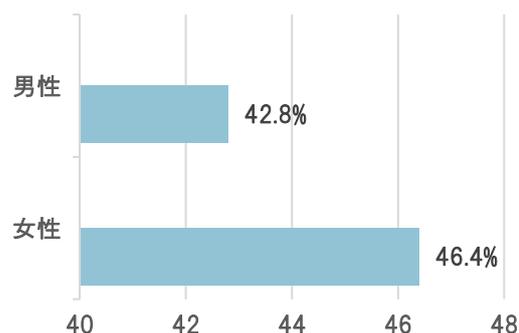
男性 107 名 (51.8%)、女性 116 名 (47.8%)、未記入 1 名 (0.4%) となっています。  
回収率は、男性 42.8%、女性 46.4%と女性の方が 3.6 ポイント高くなっています。

<性別の内訳>



N=224

<性別の回収率>



N=250

#### (2) 年齢

あなたの年齢は。

20 歳代が 5.8%、30 歳代が 8.5%、40 歳代が 11.6%、50 歳代が 20.5%、60 歳代が 22.3%、70 歳以上が 31.3%となっています。

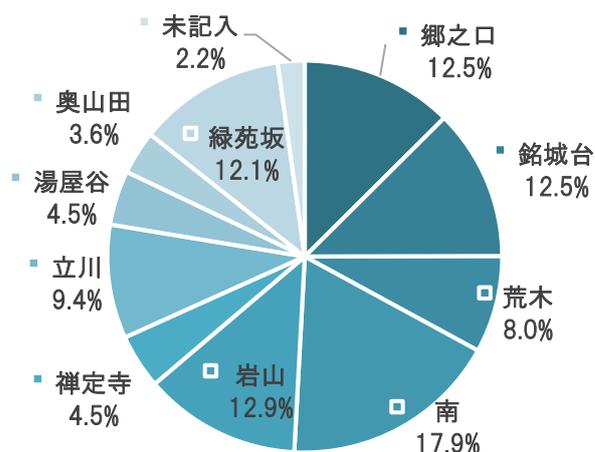
年代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	合計
割合	5.8%	8.5%	11.6%	20.5%	22.3%	31.3%	100.0%
人数	13	19	26	46	50	70	224

N=224

### (3) 住まい

あなたの住まいはどちらですか。

「郷之口」が12.5%、「銘城台」が12.5%、「荒木」が8.0%、「南」が17.9%、「岩山」が12.9%、「禅定寺」が4.5%、「立川」が9.4%、「湯屋谷」が4.5%、「奥山田」が3.6%、「緑苑坂」が12.1%、未記入が2.2%となっています。

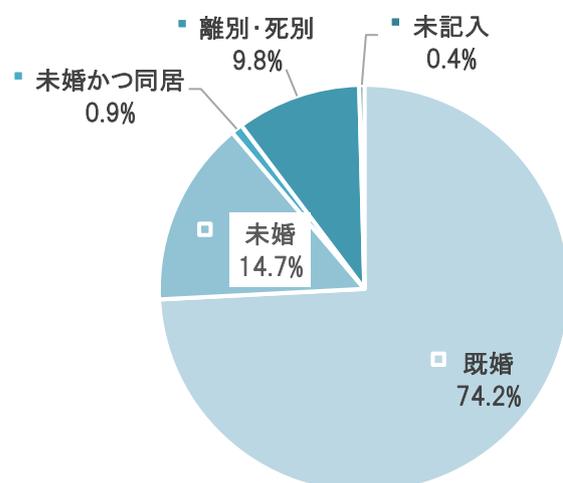


N=224

### (4) 既婚・未婚

あなたは結婚されていますか。

「結婚している」が74.2%、「結婚していない」が14.7%、「未婚だが異性と同居」が0.9%、「離別・死別」が9.8%、「未記入」が0.4%となっています。

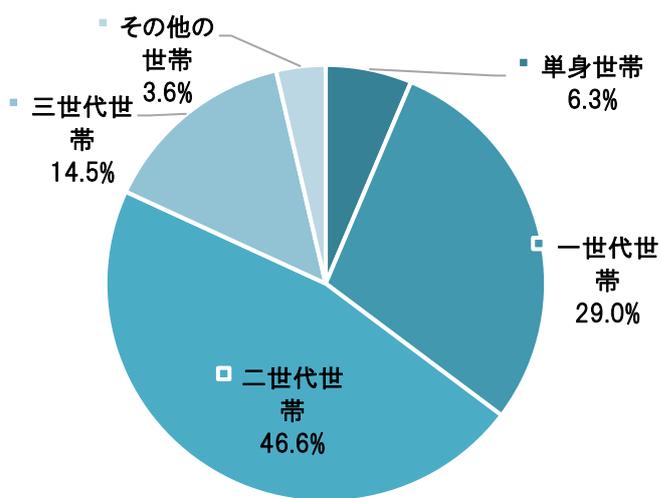


N=224

## (5) 家族形態

あなたと一緒に暮らしているご家族は。

単身世帯（ひとり暮らし）が6.3%、一世代世帯（夫婦だけ）が29.0%、二世世代世帯（親と子ども）が46.6%、三世世代世帯（親と子と孫）が14.5%となっています。



	割合
単身世帯	6.3% 14人
一世代世帯	29.0% 64人
二世世代世帯	46.6% 103人
三世世代世帯	14.5% 32人
その他世帯	3.6% 8人

N=221

## (6) 職業

あなたの職業は。(2つ以上の職業をおもちの場合は、主たる職業を1つだけ選んでください。なお、出産・育児・介護などで休暇中の場合は、働いているものとして回答してください。)

全体では、「会社員」が26.8%で最も多く、次いで「無職」が25.9%、「パート・アルバイト・内職」が17.0%となっています。

性別では、男性で「会社員」が39.3%、女性で「家事専業」が25.9%と多くなっています。

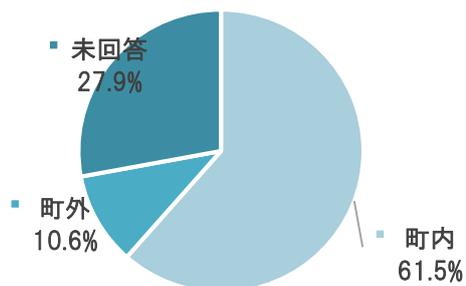
	全体	性別	
		男性	女性
会社員	26.8% (60)	39.3% (42)	15.5% (18)
公務員	2.7% (6)	3.7% (4)	1.7% (2)
農林業	2.7% (6)	4.7% (5)	0.9% (1)
自営業	5.8% (13)	7.5% (8)	4.3% (5)
パート・アルバイト・ 内職	17.0% (38)	9.3% (10)	24.1% (28)
学生	1.3% (3)	1.9% (2)	0.9% (1)
家事専業	13.4% (30)	0.0% (0)	25.9% (30)
無職	25.9% (58)	28.0% (30)	23.3% (27)
その他	4.0% (9)	4.7% (5)	3.4% (4)
未記入	0.4% (1)	0.9% (1)	0.0% (0)

N=224

## (7) 勤務先

(問6で 1,2,5 とお答えされた方におたずねします。)

あなたの勤務先は、町内・町外のどちらですか。



勤務地	割合	
		割合
町内	61.5%	64人
町外	10.6%	11人
未回答	27.9%	29人

N=104

## (8) 共働きの状況

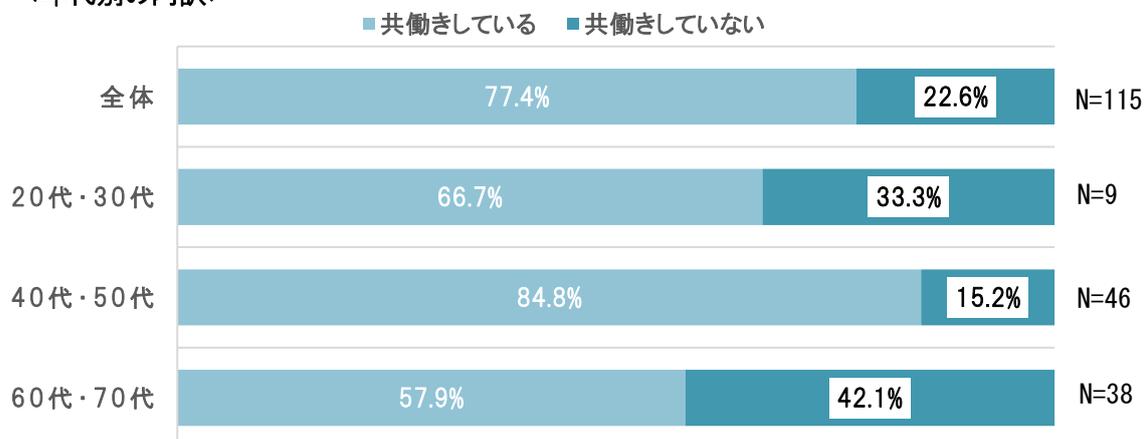
(結婚されている方におたずねします。)

あなたのご夫婦は共働きをしていますか。

全体では、「共働きしている」が 77.4%、「共働きしていない」22.6%で共働きをしている世帯の方が、54.8ポイント高くなっています。

年代別では、20・30代で一旦育児のために離職をし、40代に子どもが成長したため、再度働き出していることがうかがえます。

<年代別の内訳>



## 2 男女平等に関する意識について

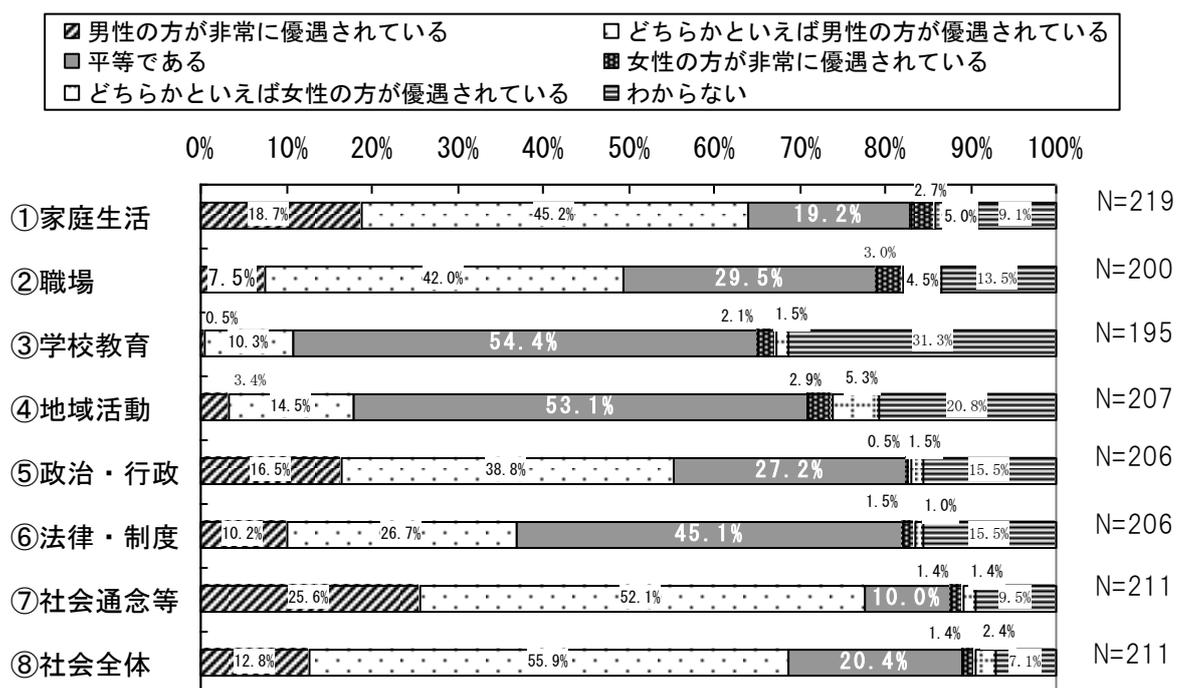
問9 男女平等は憲法で保障されていますが、現在、日本の社会において男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

調査対象8項目のうち『社会通念や習慣・しきたりなど』の項目で、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）と回答した方が77%以上になっており、同項目の「平等である」10.0%を大きく上回っています。

『家庭生活』と『社会全体』の2項目でも「男性の方が優遇されている」と回答した方が60%を超えています。

一方、『学校教育の場』『地域活動の場』の2項目では、「平等である」と回答した方が50%を超えています。

前回と比べると、家庭生活以外の全項目で「男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が低くなっています。特に『職場』については、前回アンケートでは「男性の方が優遇されている」と回答した方が60%以上になっていましたが、今回のアンケートではおよそ50%に下がりました。



## ① 家庭生活（家事・育児・介護面など）では

全体では、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が 63.9%と高くなっています。

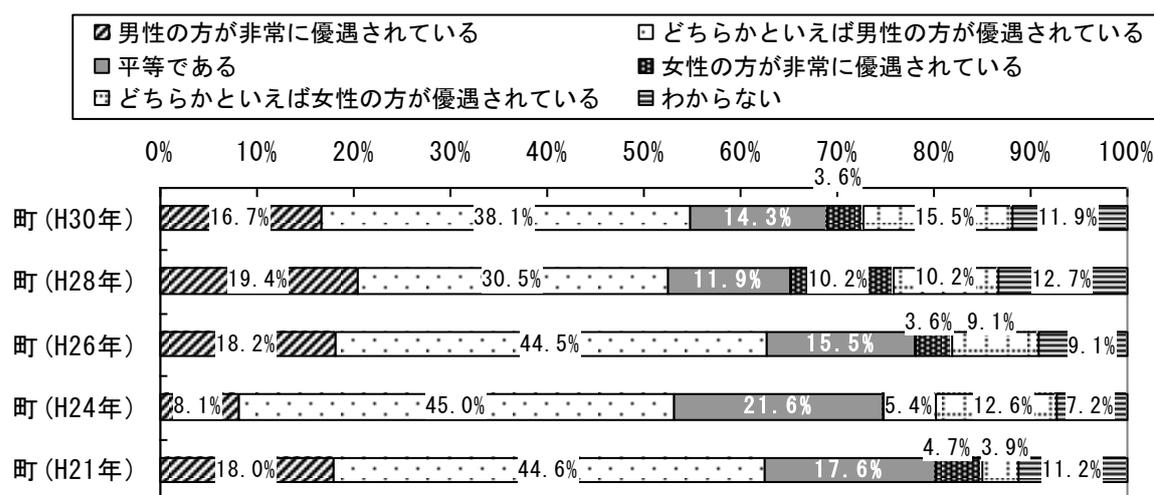
性別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、男性 42.5%、女性 47.3%といずれも高くなっています。

（※ 以降の各設問は「未回答」を表から除く）

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	18.7% (41)	14.2% (15)	23.2% (26)	19.4% (6)	16.7% (12)	19.8% (23)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	45.2% (99)	42.5% (45)	47.3% (53)	35.5% (11)	50.0% (36)	44.8% (52)
平等である	19.2% (42)	29.2% (31)	9.8% (11)	25.8% (8)	12.5% (9)	21.6% (25)
女性の方が非常に優遇されている	2.7% (6)	2.8% (3)	2.7% (3)	0% (0)	2.8% (2)	3.4% (4)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.0% (11)	2.8% (3)	7.1% (8)	9.7% (3)	5.6% (4)	3.4% (4)
わからない	9.1% (20)	8.5% (9)	9.8% (11)	9.7% (3)	12.5% (9)	6.9% (8)

N=219

<参考：過去の調査結果>



## ② 職場では

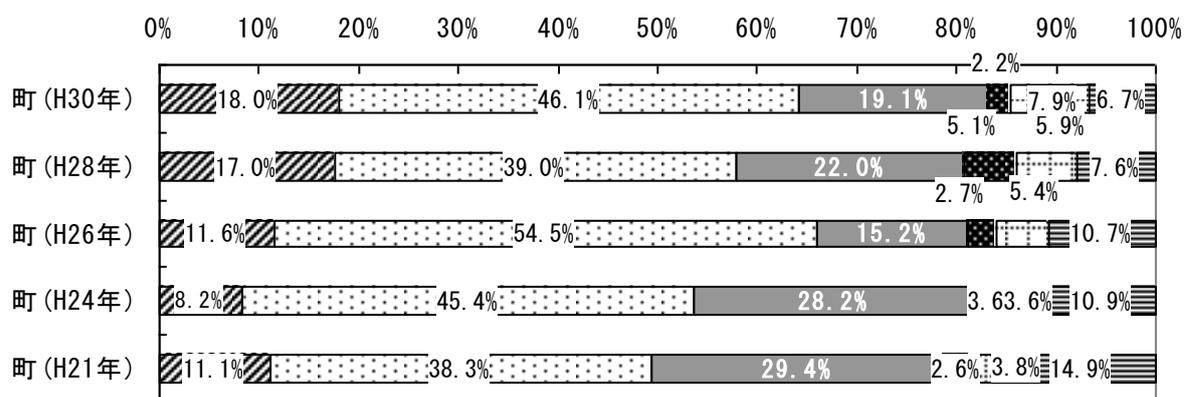
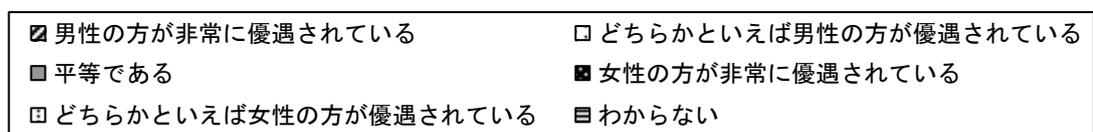
全体では、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が60.7%と高くなっていますが、一方で「平等である」が前回 H30 調査の19.1%から29.5%に向上しています。

年代別では、20代・30代は「平等である」が「男性の方が優遇されている」を上回っていますが、40代以上においては「男性の方が優遇されている」の方が多くなっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	7.5% (15)	5.9% (6)	9.3% (9)	6.5% (2)	8.3% (6)	7.2% (7)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	42.0% (84)	43.1% (44)	41.2% (40)	16.1% (5)	41.7% (30)	50.5% (49)
平等である	29.5% (59)	35.3% (36)	23.7% (23)	48.4% (15)	37.5% (27)	17.5% (17)
女性の方が非常に優遇されている	3.0% (6)	2.0% (2)	4.1% (4)	0% (0)	1.4% (1)	5.2% (5)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.5% (9)	3.9% (4)	5.2% (5)	16.1% (5)	2.8% (2)	2.1% (2)
わからない	13.5% (27)	9.8% (10)	16.5% (16)	12.9% (4)	8.3% (6)	17.5% (17)

N=200

<参考：過去の調査結果>



\*無回答除く

### ③ 学校教育の場では

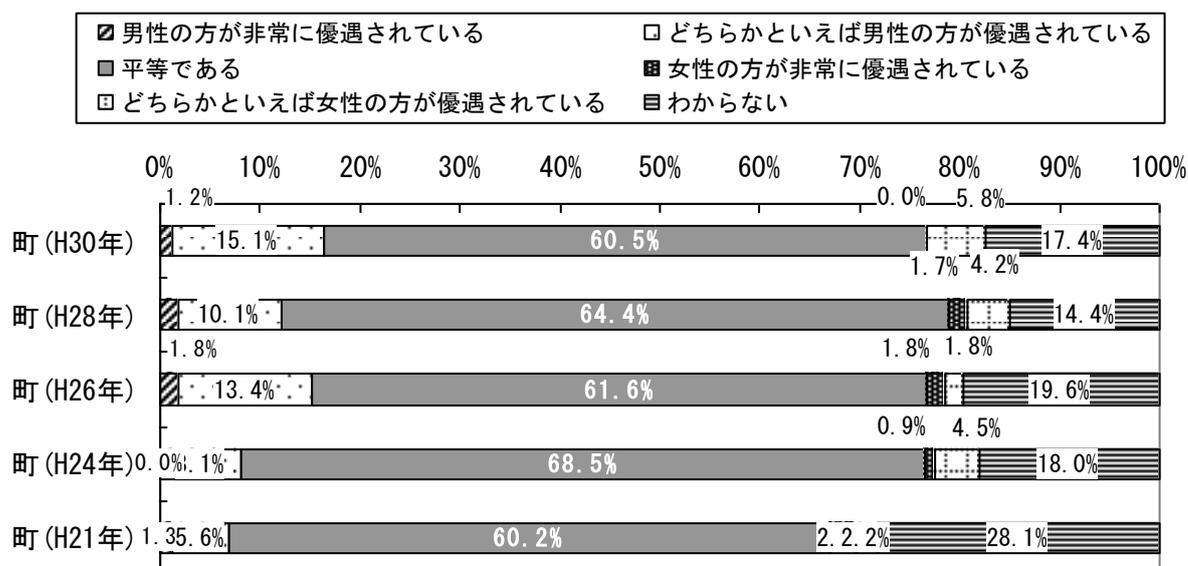
全体では、「平等である」が54.4%と調査対象8項目中最も高くなっています。

性別では、男性の61.2%、女性の47.9%が「平等である」と回答しており、男女ともに高い数値となっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	0.5% (1)	0% (0)	1.0% (1)	0% (0)	0% (0)	1.1% (1)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	10.3% (20)	6.1% (6)	14.6% (14)	6.5% (2)	7.1% (5)	13.8% (13)
平等である	54.4% (106)	61.2% (60)	47.9% (46)	45.2% (14)	62.9% (44)	51.1% (48)
女性の方が非常に優遇されている	2.1% (4)	1.0% (1)	3.1% (3)	3.2% (1)	1.4% (1)	2.1% (2)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.5% (3)	2.0% (2)	1.0% (1)	6.5% (2)	0% (0)	1.1% (1)
わからない	31.3% (61)	29.6% (29)	32.3% (31)	38.7% (12)	28.6% (20)	30.9% (29)

N=195

<参考：過去の調査結果>



#### ④ 地域活動の場(自治会・ボランティア活動など)では

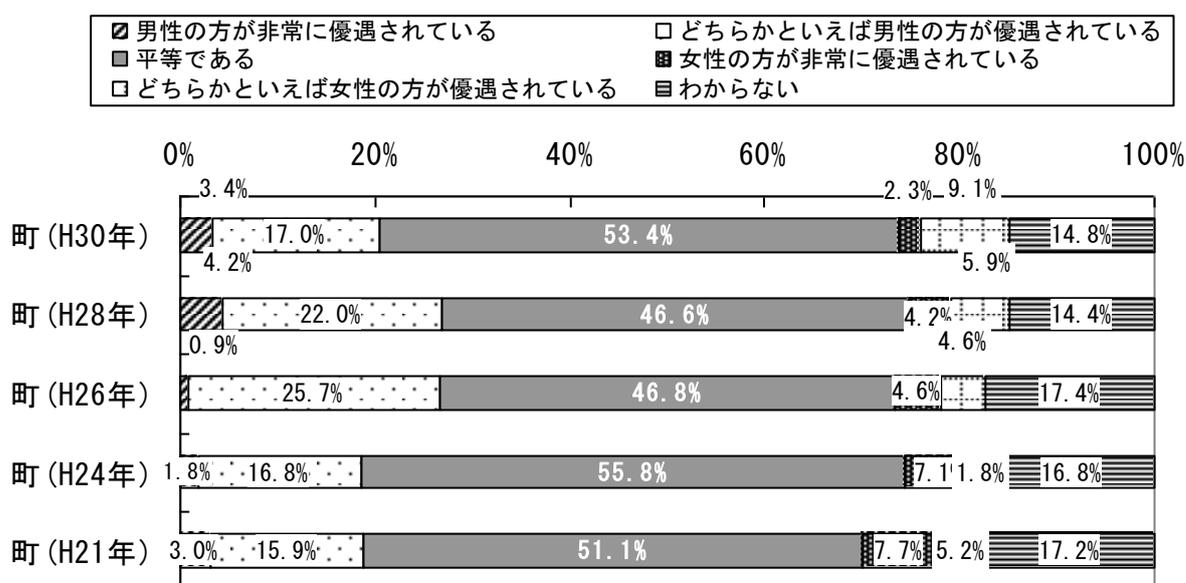
全体では、「平等である」が53.1%と高くなっています。

性別では、男性の58.3%、女性の48.5%が「平等である」と回答しており、男女ともに高い数値となっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	3.4% (7)	1.0% (1)	5.8% (6)	0% (0)	2.9% (2)	4.7% (5)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	14.5% (30)	9.7% (10)	19.4% (20)	6.3% (2)	14.5% (10)	17.0% (18)
平等である	53.1% (110)	58.3% (60)	48.5% (50)	43.8% (14)	56.5% (39)	53.8% (57)
女性の方が非常に優遇されている	2.9% (6)	2.9% (3)	2.9% (3)	0% (0)	2.9% (2)	3.8% (4)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.3% (11)	4.9% (5)	5.8% (6)	9.4% (3)	5.8% (4)	3.8% (4)
わからない	20.8% (43)	23.3% (24)	17.5% (18)	40.6% (13)	17.4% (12)	17.0% (18)

N=207

<参考：過去の調査結果>



## ⑤ 政治や行政の政策・方針決定の場では

全体では、「平等である」が27.2%と低く、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が55.3%と前回調査に引き続き高くなっています。

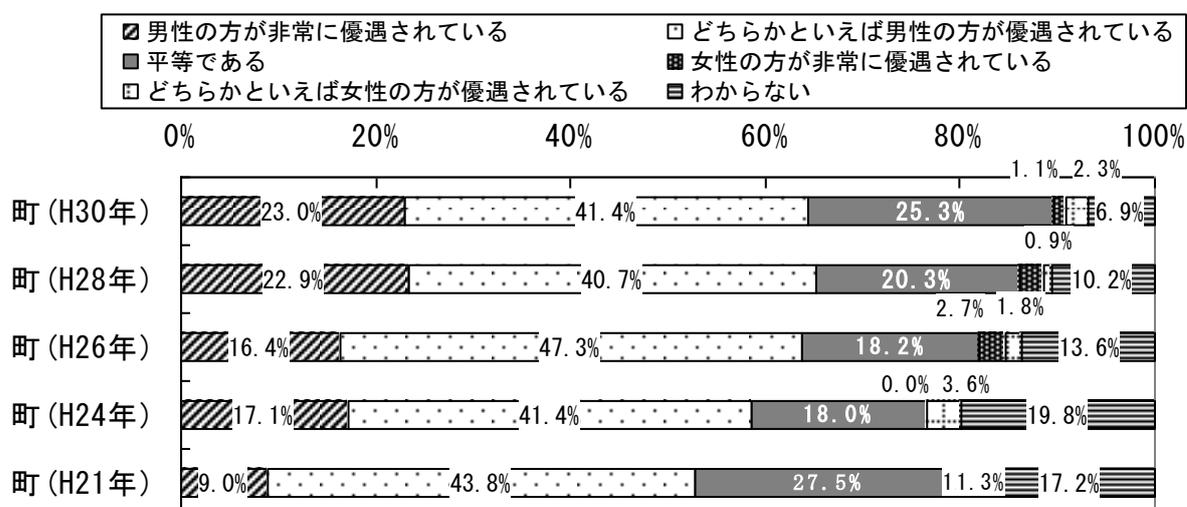
性別では、女性の61.4%が、「男性の方が優遇されている」と回答しています。

年代別では、全ての年代で「男性の方が優遇されている」と回答した方が50%を超えています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	16.5% (34)	12.5% (13)	20.8% (21)	26.7% (8)	14.3% (10)	15.1% (16)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	38.8% (80)	37.5% (39)	40.6% (41)	26.7% (8)	42.9% (30)	39.6% (42)
平等である	27.2% (56)	34.6% (36)	19.8% (20)	26.7% (8)	27.1% (19)	27.4% (29)
女性の方が非常に優遇されている	0.5% (1)	1.0% (1)	0% (0)	0% (0)	1.4% (1)	0% (0)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.5% (3)	2.9% (3)	0% (0)	3.3% (1)	2.9% (2)	0% (0)
わからない	15.5% (32)	11.5% (12)	18.8% (19)	16.7% (5)	11.4% (8)	17.9% (19)

N=206

<参考：過去の調査結果>



## ⑥ 法律や制度の上では

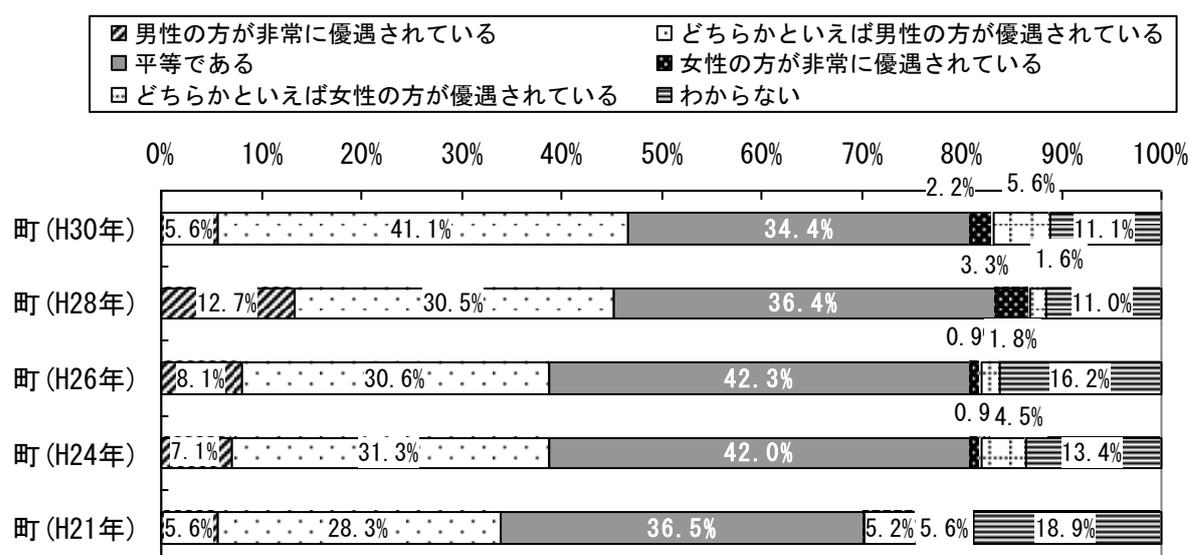
全体では、「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が36.9%と高くなっていますが、「平等である」が45.1%であり、同様に高くなっています。

しかし、性別では、「平等である」が男性62.4%に対し女性29.1%と、男女間で33.3ポイントの差がありました。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	10.2% (21)	4.0% (4)	16.5% (17)	16.1% (5)	10.3% (7)	8.4% (9)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	26.7% (55)	20.8% (21)	33.0% (34)	12.9% (4)	30.9% (21)	28.0% (30)
平等である	45.1% (93)	62.4% (63)	29.1% (30)	41.9% (13)	45.6% (31)	45.8% (49)
女性の方が非常に優遇されている	1.5% (3)	2.0% (2)	1.0% (1)	0% (0)	4.4% (3)	0% (0)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1% (2)	1.0% (1)	1.0% (1)	3.2% (1)	1.5% (1)	0% (0)
わからない	15.5% (32)	9.9% (10)	19.4% (20)	25.8% (8)	7.4% (5)	17.8% (19)

N=206

<参考：過去の調査結果>



## ⑦ 社会通念や慣習・しきたりなどでは

全体では、「平等である」が10.0%と調査対象8項目中最も低く「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が77.7%と非常に高くなっています。

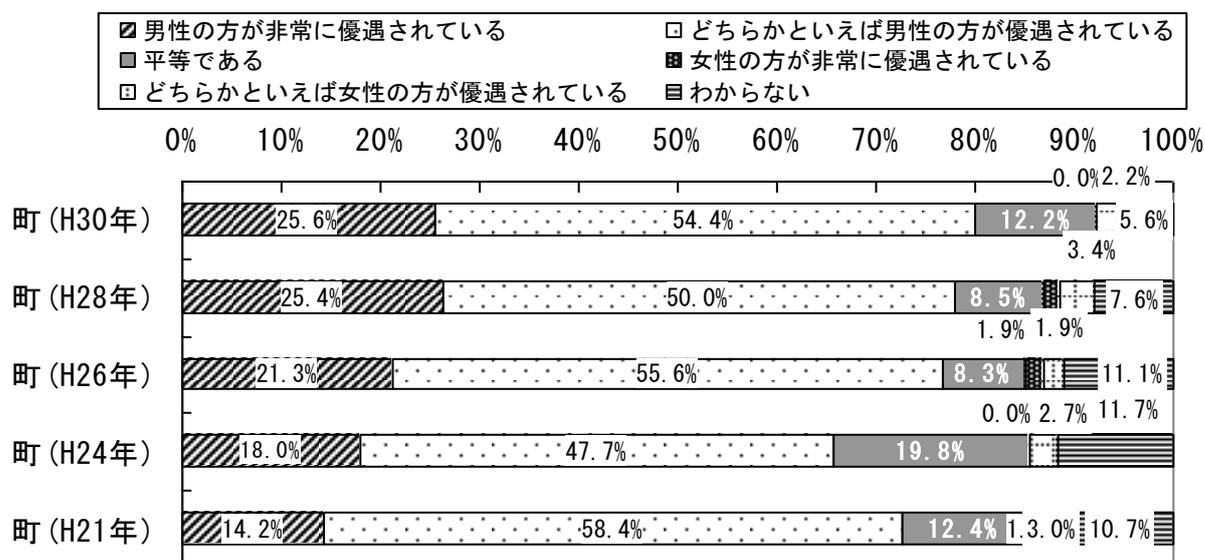
性別では、「平等である」が男性12.6%、女性7.5%と、どちらも低くなっています。

年代別では、40代・50代、60代・70代で「男性の方が優遇されている」が80%以上と非常に高くなっており、20代・30代も50%以上と高くなっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	25.6% (54)	17.5% (18)	33.6% (36)	25.8% (8)	31.0% (22)	22.0% (24)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	52.1% (110)	55.3% (57)	48.6% (52)	32.3% (10)	50.7% (36)	58.7% (64)
平等である	10.0% (21)	12.6% (13)	7.5% (8)	16.1% (5)	8.5% (6)	9.2% (10)
女性の方が非常に優遇されている	1.4% (3)	1.9% (2)	0.9% (1)	0% (0)	2.8% (2)	0.9% (1)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.4% (3)	2.9% (3)	0% (0)	3.2% (1)	1.4% (1)	0.9% (1)
わからない	9.5% (20)	9.7% (10)	9.3% (10)	22.6% (7)	5.6% (4)	8.3% (9)

N=211

<参考：過去の調査結果>



## ⑧ 社会全体では

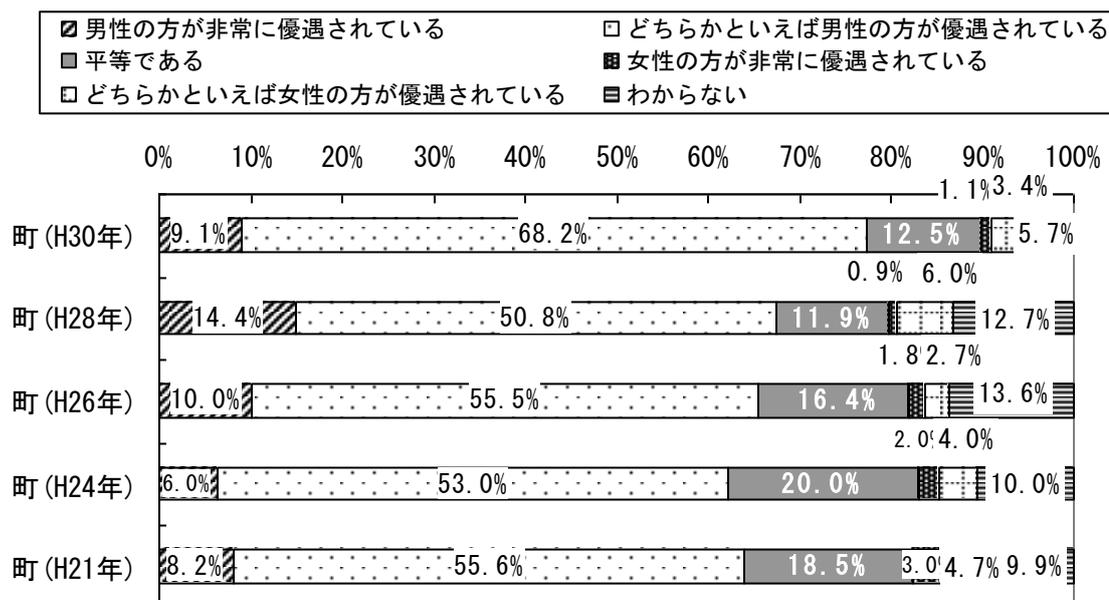
全体では、「平等である」が20.4%と低く「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が68.7%と高くなっています。

性別では、「平等である」は女性が13.0%と非常に低い数値になっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
男性の方が非常に優遇されている	12.8% (27)	7.8% (8)	17.6% (19)	16.1% (5)	15.7% (11)	10.0% (11)
どちらかといえば男性の方が優遇されている	55.9% (118)	52.0% (53)	59.3% (64)	51.6% (16)	51.4% (36)	60.0% (66)
平等である	20.4% (43)	28.4% (29)	13.0% (14)	19.4% (6)	20.0% (14)	20.9% (23)
女性の方が非常に優遇されている	1.4% (3)	2.0% (2)	0.9% (1)	0% (0)	2.9% (2)	0.9% (1)
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.4% (5)	4.9% (5)	0% (0)	6.5% (2)	4.3% (3)	0% (0)
わからない	7.1% (15)	4.9% (5)	9.3% (10)	6.5% (2)	5.7% (4)	8.2% (9)

N=211

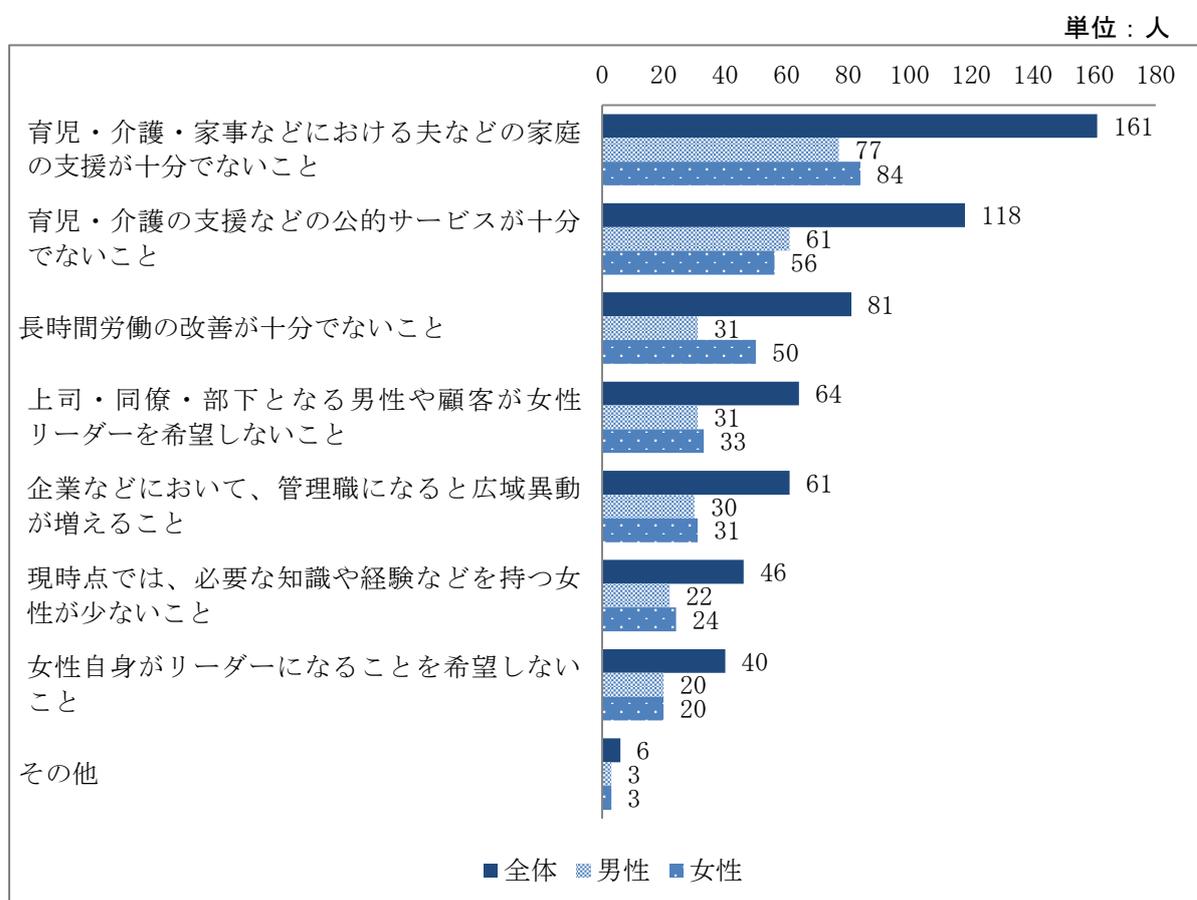
<参考：過去の調査結果>



### 3 男性・女性の活躍社会について

問10 女性のリーダーを増やす時に障がいとなるものはなんだと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

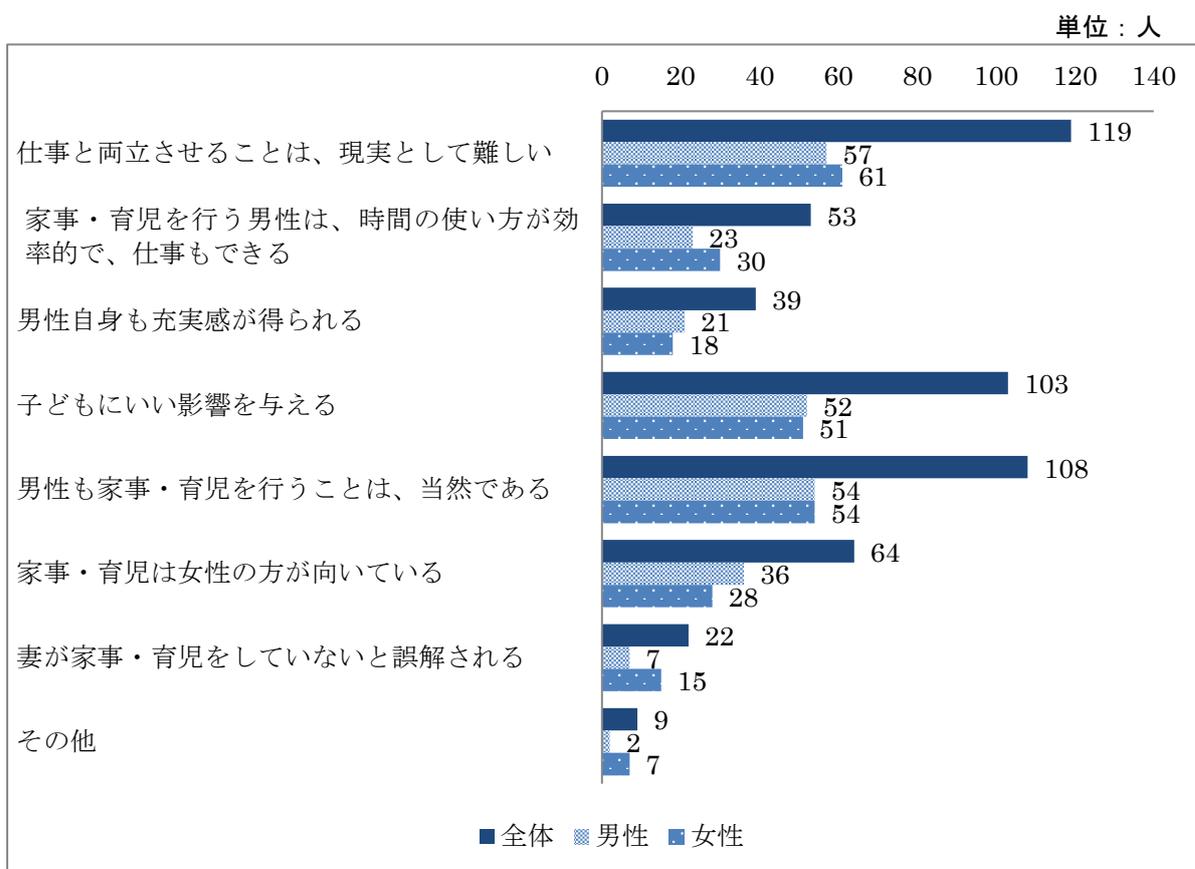
女性のリーダーを増やす時に障がいとなるものについて、「育児・介護・家事などにおける夫などの家庭の支援が十分でないこと」が最も多く、次いで、「育児・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」、「長時間労働の改善が十分でないこと」が多い結果となりました。家庭での役割分担のあり方や、社会で活動する女性を支える仕組みの充実が求められています。



(複数回答)

問11 あなたは男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをおもちですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

男性が家事・育児を行うことに対するイメージに関して、多くの人が「仕事と両立させることは、現実として難しい」という厳しいイメージを抱いていることが分かりました。しかし、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」や「子供にいい影響を与える」などの回答も多い結果でした。



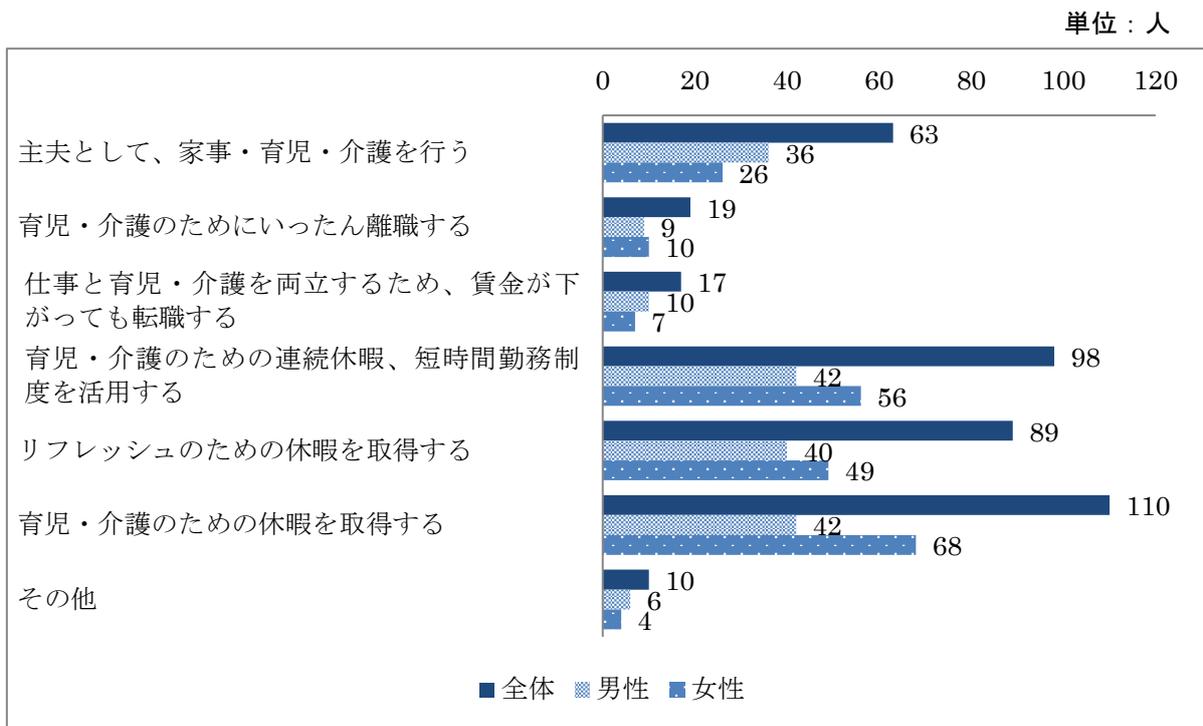
(複数回答)

問12 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて、受け入れられる理由として最も多かったのが、「育児・介護のための休暇を取得する」で、次いで多かったのが、「育児・介護のための連続休暇、短時間労働体制を活用する」でした。

また、次いで、「リフレッシュするための休暇を取得する」という答えも多くあり、「ワークライフバランス」を重視した回答もみられました。

「主夫として、家事・育児・介護を行う」が一定数の回答を占めており、主夫に対する理解が高まってきていることがうかがえます。



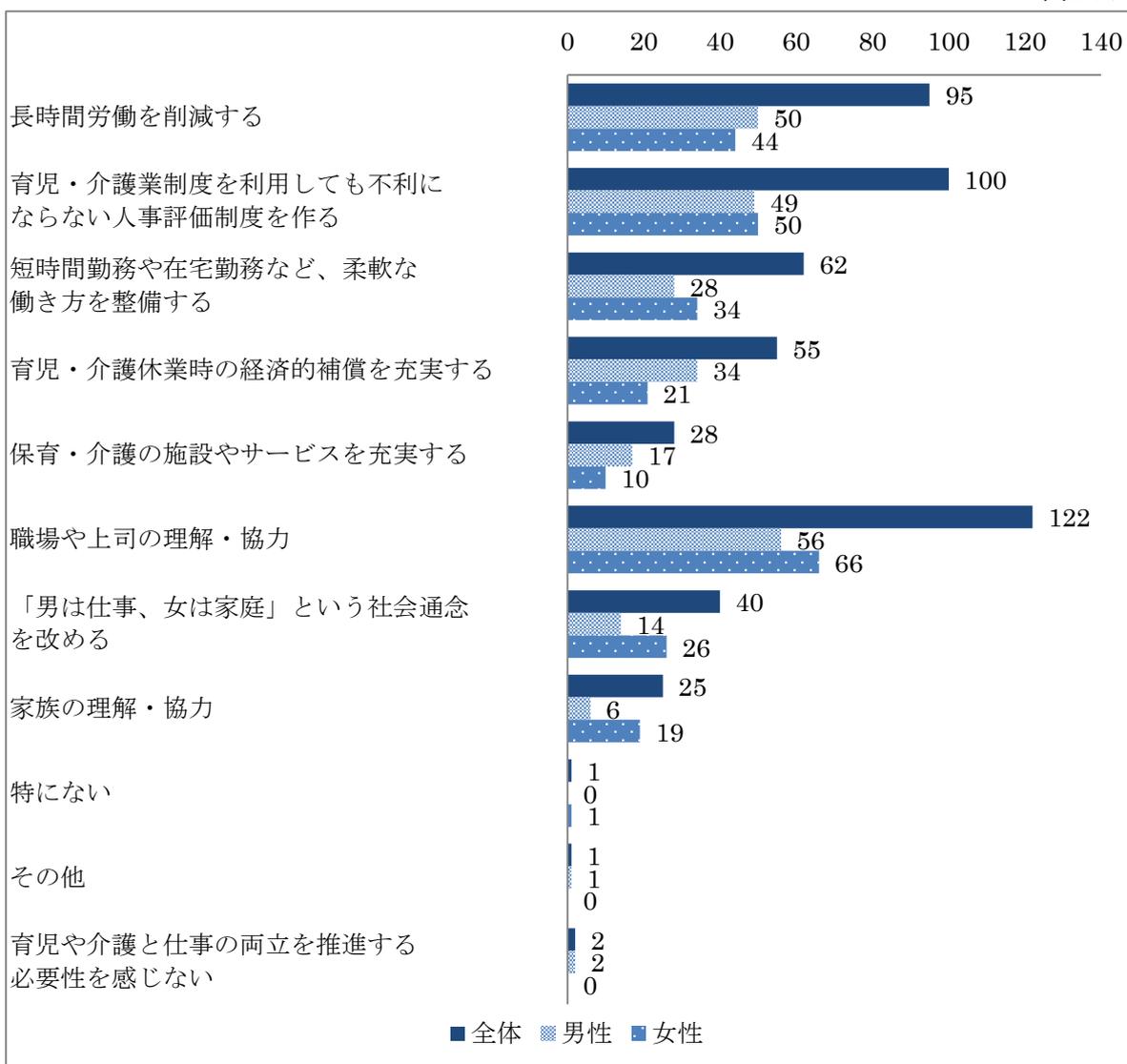
(複数回答)

問13 あなたは、育児や介護と仕事の両立を推進するために、どんなことが必要だと思いますか。男性、女性それぞれについて、特に必要だと思うことを3つまでお答えください。

① 男性の育児や介護と仕事の両立を進めるために必要なこと

「職場や上司の理解・協力」が最も多く、次いで多かったのが、「育児・介護休業制度を利用して不利にならない人事評価制度を作る」でした。また、次いで、「長時間労働を削減する」という答えも多くあり、男性の育児、介護への参画には、職場の環境づくり、働き方改革が求められていると考えられます。

単位：人

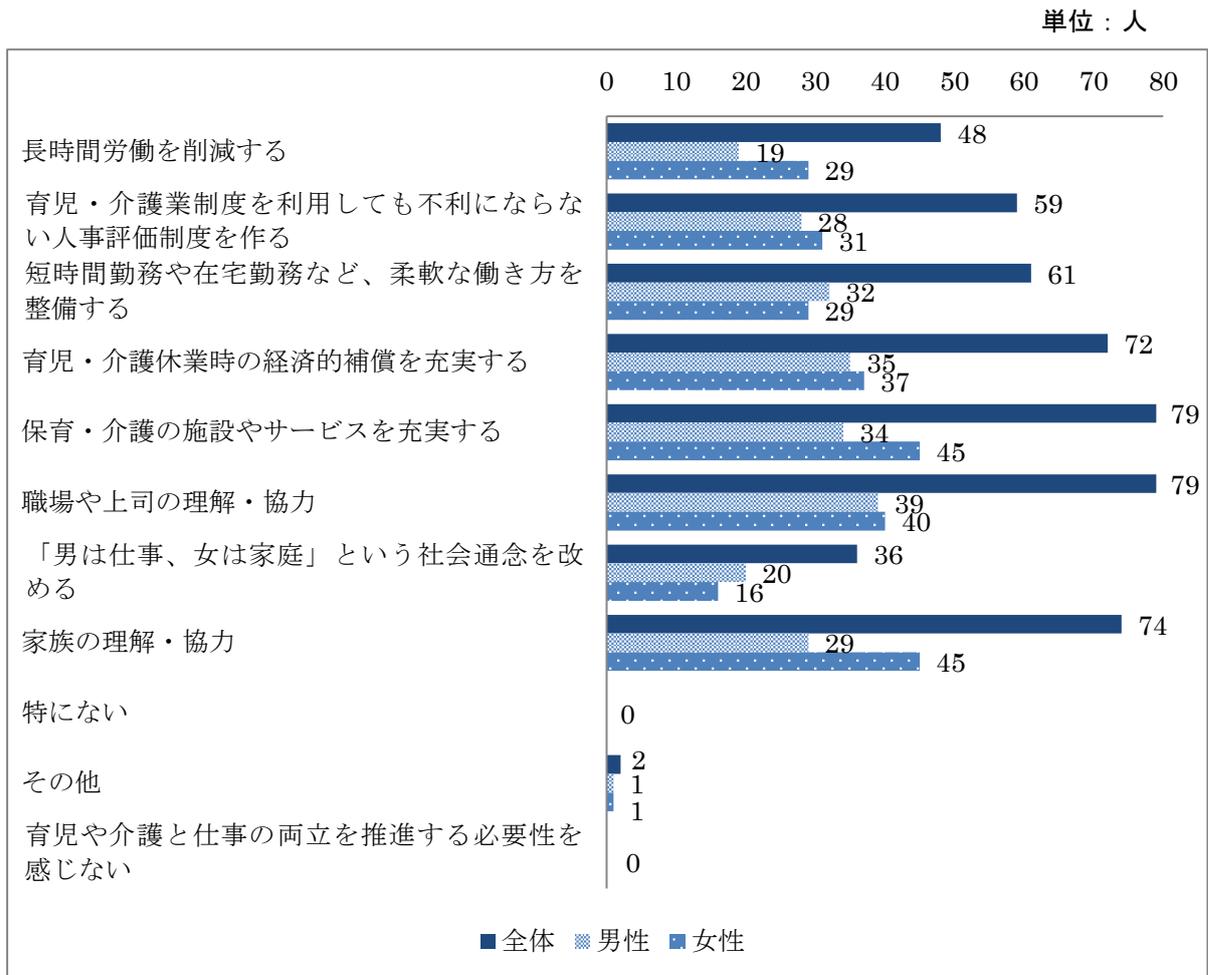


(3つまで回答)

## ② 女性の育児や介護と仕事の両立を進めるために必要なこと

「保育、介護の施設やサービスの充実」と「職場や上司の理解・協力」の回答が最も多くなっています。

また、次いで多かったのが、「家族の理解・協力」であり、さらに、「育児・介護休業時の経済的補償を充実する」という答えも多くあり、女性の育児、介護と仕事の両立においても、働き方改革、周囲の理解・協力が非常に重要であることがわかります。



(3つまで回答)

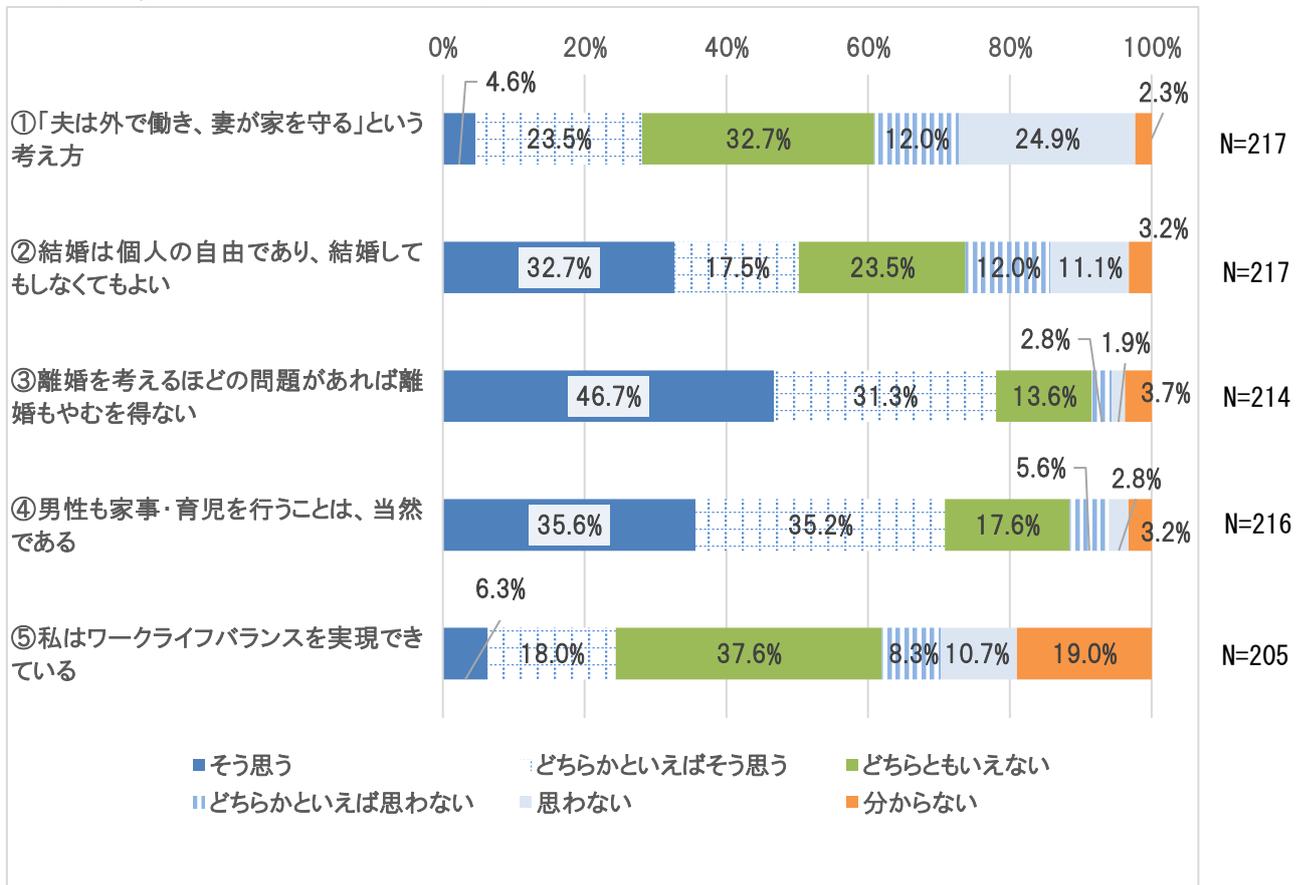
## 4 結婚や職業など生活全般について

問14 あなたは次の事柄について、どのように思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

「①「夫は外で働き、妻が家を守る」という考え方」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」より「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の回答の方が多くなっています。

「②結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもよい」について「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答の合計が50%を超えており、また「③離婚を考えるほどの問題があれば離婚もやむを得ない」、「④男性も家事・育児を行うことは、当然である」の両設問とも、それぞれ「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が70%を超えていることから、結婚や離婚の選択の自由や、男性の家事・育児に対する理解は深まってきていることがうかがえます。

しかしながら、「⑤私はワークライフバランスを実現できている」では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」のポイントが低いことから、実際の仕事と生活の調和は実現が難しいことがうかがえます。



## ① 「夫は外で働き、妻が家を守る」という考え方は

全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」の回答の合計が 28.1%に比べ、「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」の合計 36.9%より下回っています。

年代別では 20 代・30 代の「そう思わない」の回答が 45.2%と最も高くなっており、若い世代の方が「夫は外で働き、妻が家を守る」と考えない傾向にあります。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
そう思う	4.6% (10)	1.9% (2)	7.2% (8)	0% (0)	2.8% (2)	7.0% (8)
どちらかといえばそう思う	23.5% (51)	25.7% (27)	20.7% (23)	9.7% (3)	19.7% (14)	29.6% (34)
どちらともいえない	32.7% (71)	35.2% (37)	30.6% (34)	38.7% (12)	38.0% (27)	27.8% (32)
どちらかといえばそう思わない	12.0% (26)	14.3% (15)	9.9% (11)	6.5% (2)	9.9% (7)	14.8% (17)
そう思わない	24.9% (54)	21.9% (23)	27.9% (31)	45.2% (14)	28.2% (20)	17.4% (20)
わからない	2.3% (5)	1.0% (1)	3.6% (4)	0% (0)	1.4% (1)	3.5% (4)

N=217

## ② 結婚は個人の自由か

全体では、「そう思う」の回答が 32.7%と最も多く、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の回答と比べても、それぞれを 20 ポイント以上上回る結果となっています。

性別では、女性の方が「そう思う」や「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が高くなっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
そう思う	32.7% (71)	28.8% (30)	36.6% (41)	61.3% (19)	36.6% (26)	22.6% (26)
どちらかといえばそう思う	17.5% (38)	16.3% (17)	18.8% (21)	12.9% (4)	22.5% (16)	15.7% (18)
どちらともいえない	23.5% (51)	23.1% (24)	23.2% (26)	12.9% (4)	26.8% (19)	24.3% (28)
どちらかといえばそう思わない	12.0% (26)	13.5% (14)	10.7% (12)	6.5% (2)	5.6% (4)	17.4% (20)
そう思わない	11.1% (24)	15.4% (16)	7.1% (8)	3.2% (1)	7.0% (5)	15.7% (18)
わからない	3.2% (7)	2.9% (3)	3.6% (4)	3.2% (1)	1.4% (1)	4.3% (5)

N=217

### ③ 離婚を考えるほどの問題があれば離婚もやむを得ない

全体では、「そう思う」が46.7%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が31.3%とどちらも高い数値となっています。性別でも同様の結果となっており、男女間での認識が少なくなっていると考えられます。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
そう思う	46.7% (100)	42.7% (44)	50.9% (56)	71.0% (22)	56.3% (40)	33.9% (38)
どちらかといえばそう思う	31.3% (67)	31.1% (32)	30.9% (34)	16.1% (5)	31.0% (22)	35.7% (40)
どちらともいえない	13.6% (29)	16.5% (17)	10.9% (12)	9.7% (3)	8.5% (6)	17.9% (20)
どちらかといえばそう思わない	2.8% (6)	2.9% (3)	2.7% (3)	3.2% (1)	1.4% (1)	3.6% (4)
そう思わない	1.9% (4)	1.0% (1)	2.7% (3)	0% (0)	0% (0)	3.6% (4)
わからない	3.7% (8)	5.8% (6)	1.8% (2)	0% (0)	2.8% (2)	5.4% (6)

N=214

#### ④ 男性も家事・育児を行うことは当然か

全体では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の回答の合計が70%を超えています。

性別では、「そう思う」の回答のポイントが女性の方が男性より4.1ポイント高くなっていますが、「どちらかといえばそう思う」の回答は男性の方が7.0ポイント高くなっており、男性の家事・育児に対する価値観は男女間で大きな差はないと考えられます。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
そう思う	35.6% (77)	33.7% (35)	37.8% (42)	51.6% (16)	45.1% (32)	25.4% (29)
どちらかといえばそう思う	35.2% (76)	38.5% (40)	31.5% (35)	32.3% (10)	33.8% (24)	36.8% (42)
どちらともいえない	17.6% (38)	16.3% (17)	18.9% (21)	9.7% (3)	14.1% (10)	21.9% (25)
どちらかといえばそう思わない	5.6% (12)	4.8% (5)	6.3% (7)	0% (0)	4.2% (3)	7.9% (9)
そう思わない	2.8% (6)	3.8% (4)	1.8% (2)	6.5% (2)	0% (0)	3.5% (4)
わからない	3.2% (7)	2.9% (3)	3.6% (4)	0% (0)	2.8% (2)	4.4% (5)

N=216

## ⑤ 自分のワークライフバランスの実現度

全体では、「わからない」の回答が全5項目の中で最も多く、「どちらともいえない」の回答と合わせると過半数を超えることから、ワークライフバランスという考え方が浸透しきっていないことがうかがえます。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
そう思う	6.3% (13)	5.1% (5)	7.6% (8)	3.2% (1)	7.0% (5)	6.8% (7)
どちらかといえばそう思う	18.0% (37)	16.2% (16)	20.0% (21)	12.9% (4)	16.9% (12)	20.4% (21)
どちらともいえない	37.6% (77)	44.4% (44)	31.4% (33)	45.2% (14)	40.8% (29)	33.0% (34)
どちらかといえばそう思わない	8.3% (17)	9.1% (9)	7.6% (8)	6.5% (2)	11.3% (8)	6.8% (7)
そう思わない	10.7% (22)	10.1% (10)	10.5% (11)	9.7% (3)	16.9% (12)	6.8% (7)
わからない	19.0% (39)	15.2% (15)	22.9% (24)	22.6% (7)	7.0% (5)	26.2% (27)

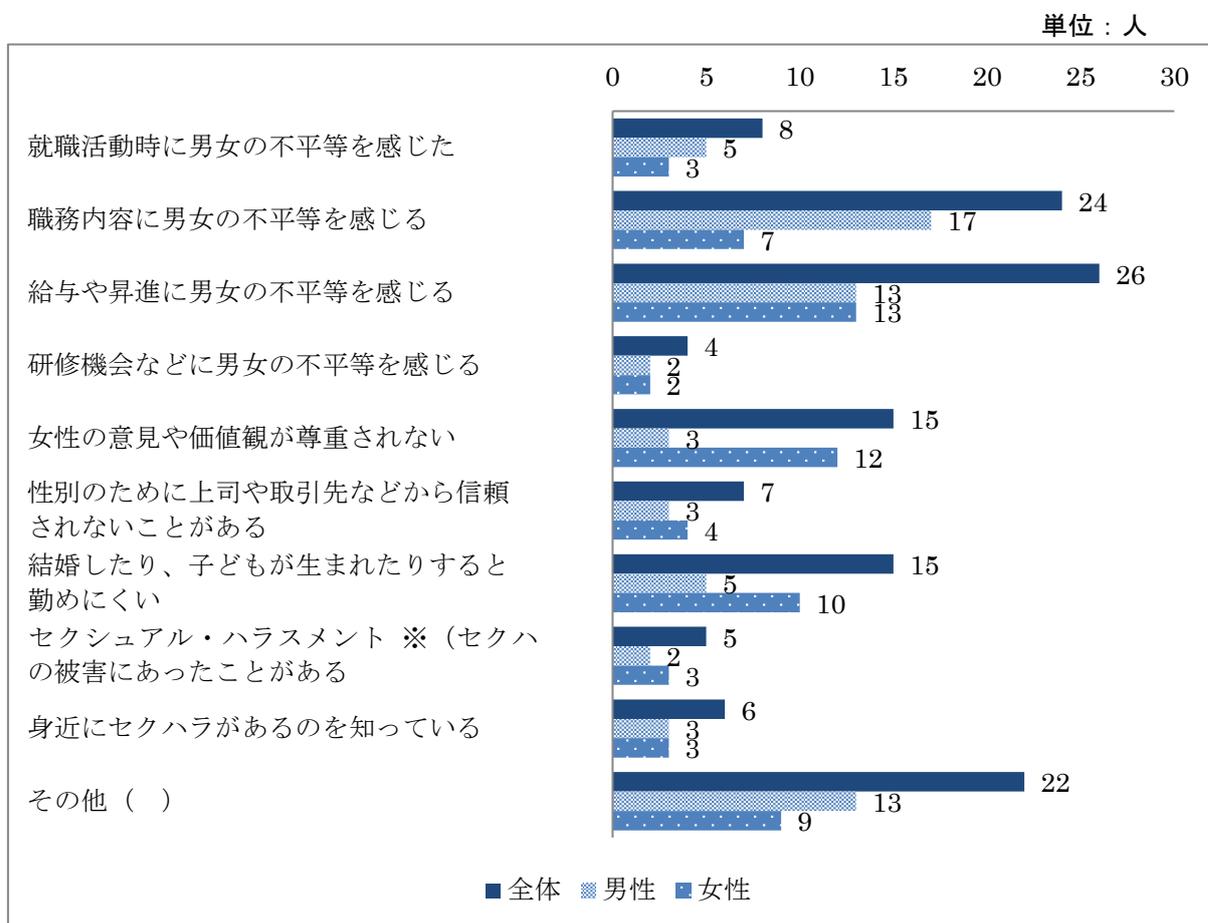
N=205

問 1 5 （現在企業や団体などで就労している方におたずねします。）

あなたの職業・職場について、あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「給与や昇進に男女の不平等を感じる」が最も多く、次いで「職務内容に男女の不平等を感じる」が多くなっています。

性別では、男性は「職務内容に男女の不平等を感じる」が最も多く、女性は「給与や昇進に男女の不平等を感じる」が最も多くなっています。「女性の意見や価値観が尊重されない」と「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」は女性の方が多く、「職務内容に男女の不平等を感じる」は男性の方が多く、男女間での認識の差がありません。



（複数回答）

問 1 6 （結婚されている方※におたずねします。※婚姻はしていないが異性と同居している方も含みます。）

結婚・出産後のあなたの就労・退職について満足していますか。  
 （男性も、自分の結婚後、配偶者の出産後の自分自身のことをお答えください。）

全体では、「満足」と答えた人が 42.4%で、残りの 57.6%の方は表に示す何らかの理由で不満を示しています。中でも「もっと家庭生活を優先しながら働きたかった」が 22.9%と最も高い不満理由になっています。

「退職して家庭や育児に専念したかった」と回答した方が最も少なく、家庭を優先しながら働きたいと考える方が多いことがわかります。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
満足	42.4% (61)	44.8% (30)	40.3% (31)	40.0% (4)	40.7% (22)	43.8% (35)
退職せずに働きたかった	5.6% (8)	1.5% (1)	9.1% (7)	10.0% (1)	9.3% (5)	2.5% (2)
退職せずに育児休暇をとりたかった	6.9% (10)	3.0% (2)	10.4% (8)	20.0% (2)	7.4% (4)	5.0% (4)
もっと長く育児休暇をとりたかった	5.6% (8)	4.5% (3)	6.5% (5)	10.0% (1)	11.1% (6)	1.3% (1)
もっと長期間働きたかった	4.9% (7)	4.5% (3)	5.2% (4)	10.0% (1)	0% (0)	7.5% (6)
もっと家庭生活を優先しながら働きたかった	22.9% (33)	28.4% (19)	18.2% (14)	10.0% (1)	22.2% (12)	25.0% (20)
退職して家庭や育児に専念したかった	2.8% (4)	1.5% (1)	3.9% (3)	0% (0)	3.7% (2)	2.5% (2)
その他	9.0% (13)	11.9% (8)	6.5% (5)	0% (0)	5.6% (3)	12.5% (10)

N=144

問17 女性が職業（収入のある仕事）をもつことについて、あなたはどのように考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください

全体では、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が44.7%と最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が30.8%と多くなっています。

性別、年代別でも結果は大きく変わらないことから、女性が職業をもつことに対する理解は男女間、世代間共に深まっていることがわかります。

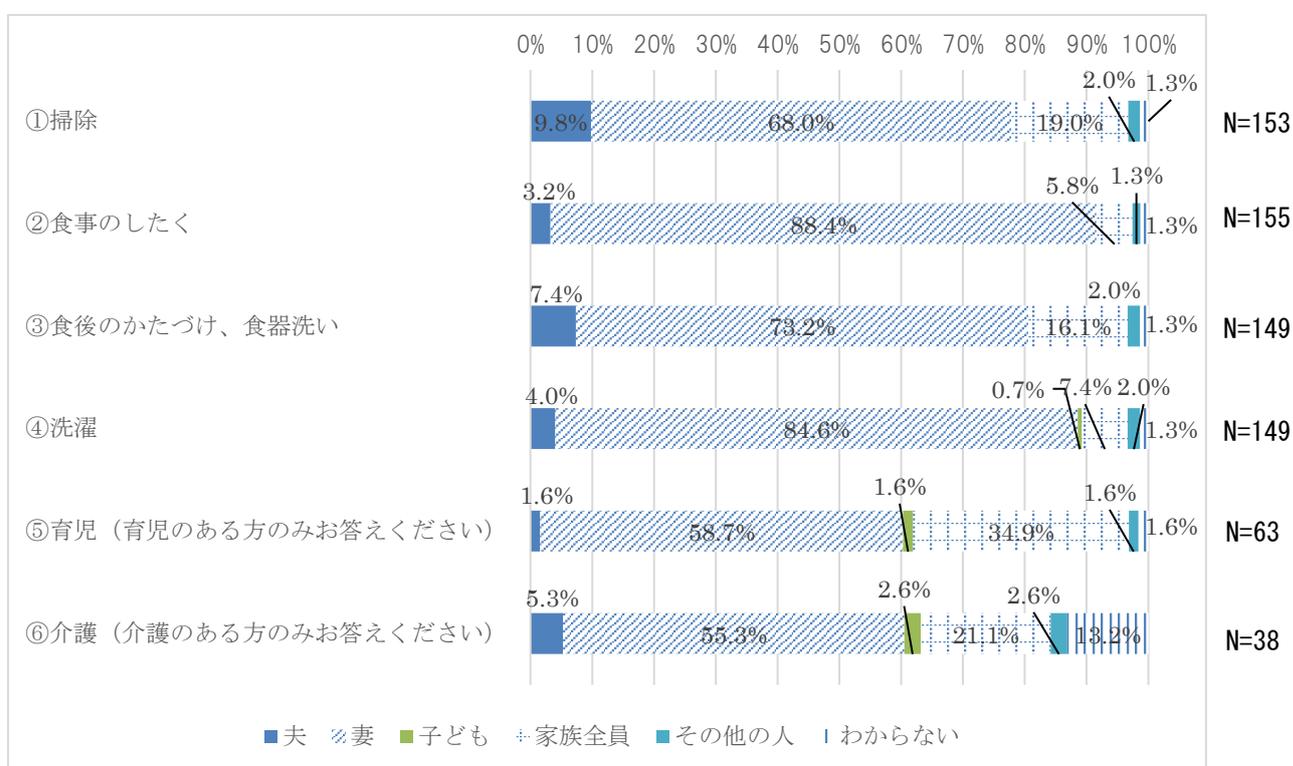
	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
職業をもたないほうがよい	0.5% (1)	1.0% (1)	0% (0)	0% (0)	1.4% (1)	0% (0)
結婚するまでは、職業をもつほうがよい	2.4% (5)	2.0% (2)	2.8% (3)	6.7% (2)	2.8% (2)	0.9% (1)
子どもができるまでは、職業をもつほうがよい	4.3% (9)	4.0% (4)	4.6% (5)	3.3% (1)	4.2% (3)	4.7% (5)
子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	44.7% (93)	46.0% (46)	43.5% (47)	43.3% (13)	42.3% (30)	46.7% (50)
子どもはつくらずに、そのまま職業を続けるほうがよい	0.5% (1)	0% (0)	0.9% (1)	0% (0)	0% (0)	0.9% (1)
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい	30.8% (64)	29.0% (29)	32.4% (35)	20.0% (6)	28.2% (20)	35.5% (38)
その他	11.1% (23)	12.0% (12)	10.2% (11)	16.7% (5)	14.1% (10)	7.5% (8)
わからない	5.8% (12)	6.0% (6)	5.6% (6)	10.0% (3)	7.0% (5)	3.7% (4)

N=208

問18 (結婚されている方(婚姻はしていないが異性と同居している方も含む)におたずねします。)

①あなたの家庭では、次のような家事を、主にだれが分担していますか。それぞれの項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

調査対象6項目全てで、主に家事を分担しているのは「妻」という回答が最も多く、次いで「家族全員」が多くなっています。「夫」は全ての項目で、10%以下と低い水準になりました。

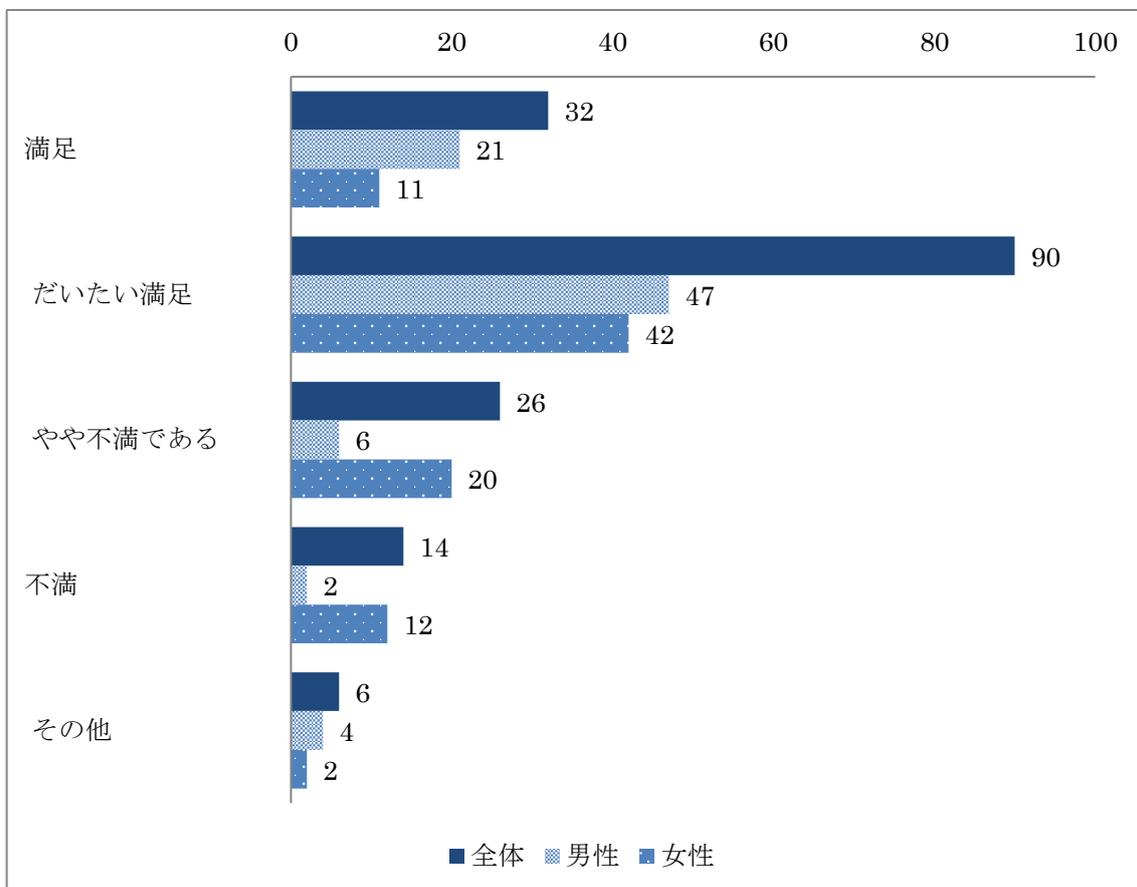


②あなたは家庭での現在の家事分担に満足していますか。 あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体では、「だいたい満足」が最も多く、次いで「満足」が多いという結果になりました。

性別では、「満足」「だいたい満足」と回答したのは男性の方が多く、「やや不満である」「不満である」と回答したのは女性の方が多くなっており、男女間での認識に差があると考えられます。

単位：人

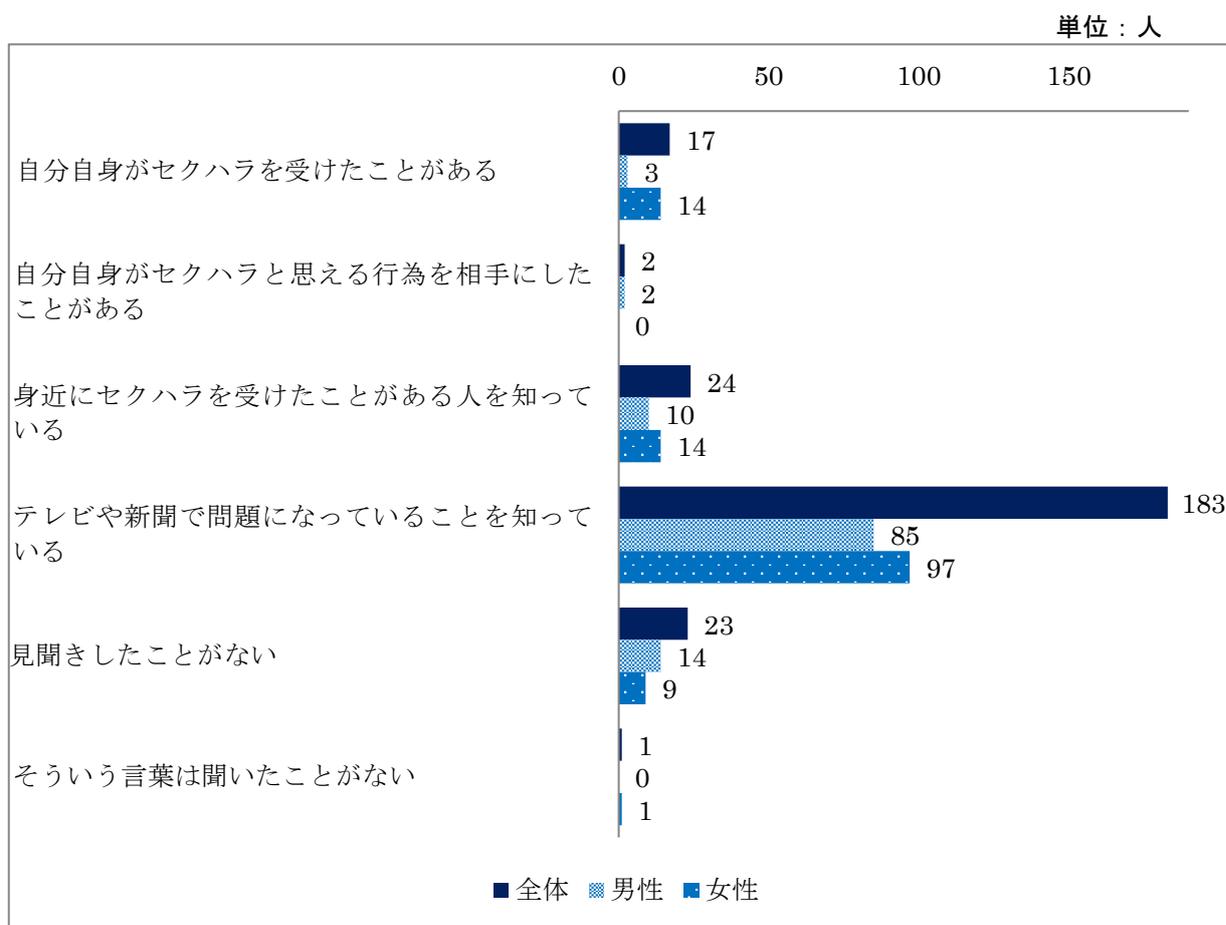


N=168

## 5 人権について

問19 「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」が問題になっていますが、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「テレビや新聞で問題になっていることを知っている」の数値が最も高く、「そういう言葉は聞いたことがない」は1人となっており、セクハラ認知度が非常に高くなっていることがうかがえます。



(複数回答)

問20 あなたはセクハラが起こる主な原因は何だと思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体では、「男性優位の意識があるからだ」が最も高く、次いで「加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある」が高くなっています。

年代別では、20代・30代と40代・50代は全体と同じく、「男性優位の意識があるからだ」が最も高く、60代・70代は「加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある」が最も高くなっています。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある	26.0% (50)	24.4% (22)	27.5% (28)	11.1% (3)	17.6% (12)	35.7% (35)
被害者にセクハラを受ける原因があるからだ	2.1% (4)	1.1% (1)	2.9% (3)	0% (0)	1.5% (1)	3.1% (3)
女性を「女の子」扱いし、一人前の社会人とみなさないからだ	8.9% (17)	13.3% (12)	4.9% (5)	14.8% (4)	10.3% (7)	6.1% (6)
男性優位の意識があるからだ	35.9% (69)	31.1% (28)	40.2% (41)	44.4% (12)	44.1% (30)	27.6% (27)
根強い男女の役割分担意識があるからだ	15.6% (30)	18.9% (17)	12.7% (13)	11.1% (3)	16.2% (11)	17.3% (17)
その他	11.5% (22)	11.1% (10)	11.8% (12)	18.5% (5)	10.3% (7)	10.2% (10)

N=192

問21 あなたは配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）を身近に見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全世代とも「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も多く、認知度が非常に高くなっていることがうかがえます。

	全体	性別		年代別		
		男性	女性	20代・30代	40代・50代	60代・70代以上
自分自身がドメスティック・バイオレンスを受けたことがある。	4.3% (9)	2.1% (2)	6.4% (7)	3.2% (1)	4.2% (3)	4.8% (5)
自分自身がドメスティック・バイオレンスと考える行為を相手にしたことがある	0.5% (1)	0% (1)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	1.0% (1)
身近にドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人を知っている	13.0% (27)	11.5% (11)	14.5% (16)	12.9% (4)	12.7% (9)	13.3% (14)
テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	72.5% (150)	74.0% (71)	71.8% (79)	77.4% (24)	73.2% (52)	71.4% (75)
見聞きしたことはない	6.8% (14)	8.3% (8)	5.5% (6)	6.5% (2)	8.5% (6)	5.7% (6)
そういう言葉は聞いたことがない	2.4% (5)	3.1% (3)	1.8% (2)	0% (0)	1.4% (1)	3.8% (4)

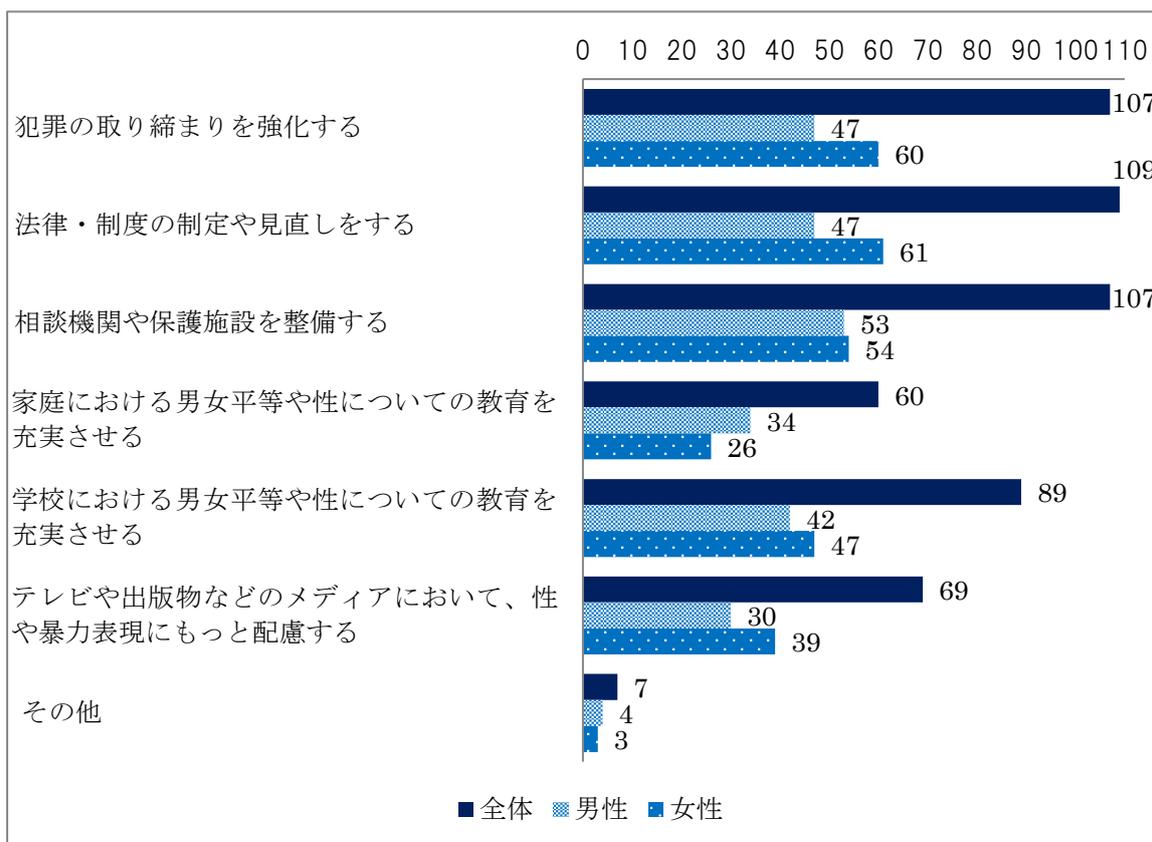
N=206

問 2 2 女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクハラなどから人権を守るために何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「法律・制度の制定や見直しをする」が最も多く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」、「相談機関や保護施設を整備する」がともに多くなっています。

性別では、男性は「相談機関や保護施設を整備する」の回答が最も多く、女性は「法律・制度の制定や見直しをする」が最も多い結果となりました。

単位：人



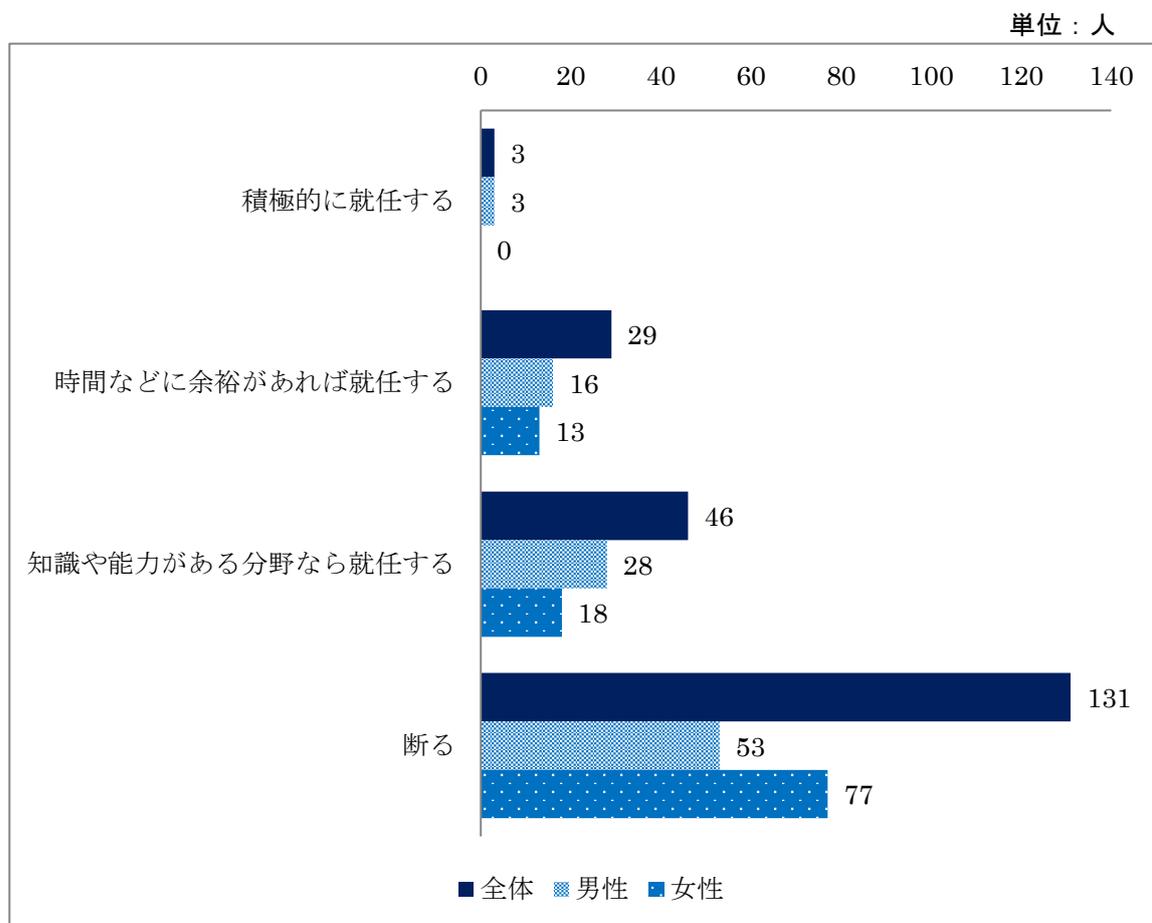
(複数回答)

## 6 男女共同参画のまちづくりについて

問23 府や町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体では、「断る」の回答が最も多くなっています。

性別では、男性の方が「就任する」との回答が多くなっています。

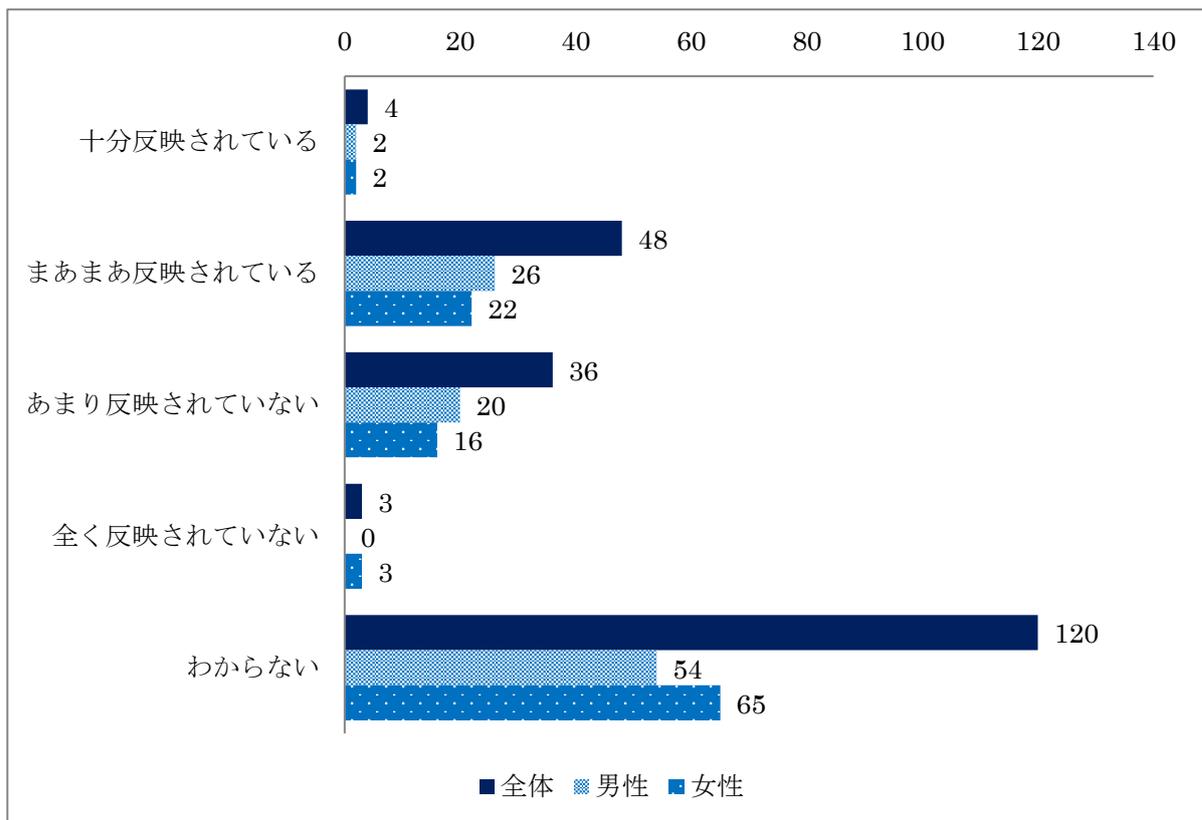


N=209

問24 宇治田原町のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体では、「わからない」の回答が非常に多く増えており、次いで「まあまあ反映されている」、「あまり反映されていない」の順となっています。

単位：人



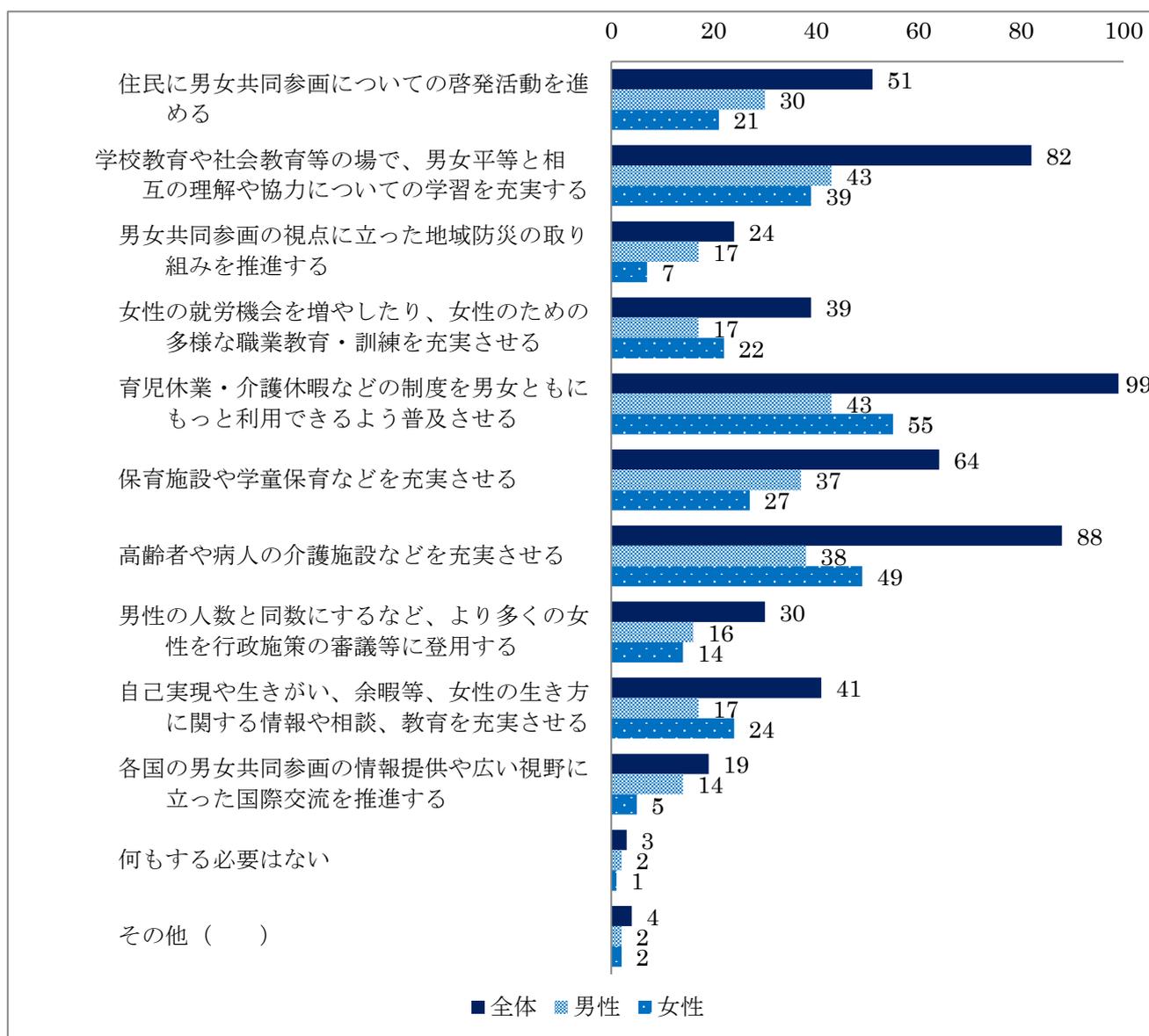
N=211

**問25 男女共同参画社会をつくるために、行政はどのようなことをしたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください**

全体では、「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」が最も多く、次いで「高齢者や病人の介護施設などを充実させる」が多くなっています。

性別では、男性は「学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」と「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」が同数で最も多く、女性は「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」が最も多くなっています。

単位：人



(3つまで回答)

## 7 自由意見

宇治田原町の男女共同参画のためのまちづくりについて自由記述欄に記載を求めたところ、31件の記入がありました。以下にその内容を記載します。(原則として原文のまま記載。なお、不適切な表現等を含む意見については、事務局の判断により掲載をとりやめたものがあります。)

	年齢	性別	記述内容
1.	女性	70代以上	年齢が年齢ですので、参加できません。
2.	女性	70代以上	京都南部地区の町村の活動グループ情報を集めて、勉強するなり交流し若い方々の視野を高めてゆかなくてはならないように思います
3.	女性	30代	町内には男女問わずおもしろい経歴やスキルを活かす機会がなく(町内にその職種がない、開業しても利益を見込めない etc...)埋もれてしまっている方がたくさんいらっしゃると思います。特に子育て世代の女性は家庭優先となり本来希望する職業に就けないことが多くあるのが現状です。このような方々の「発掘」は住民どうしの距離が近い(情報交換が盛ん)宇治田原町だからこそできる工夫があるのではないのでしょうか。他の自治体の後追いではなく宇治田原町独自の魅力を作っていけることを希望します。
4.	女性	70代以上	他府県においての事を参考にされては。
5.	女性	70代以上	宇治田原町の人口が減っていくのが不安です。もっと人口が増える事を第1に考えられたらと強く思います
6.	女性	30代	宇治田原町はお金の使い方がおかしいので、もっとよく考えてほしい。色々な人の意見を取り入れた方が良い
7.	女性	30代	今現在、宇治田原町の男女共同参画のためのまちづくりとして、どのようなことが行われているのか分からないため、アンケートを送付される際に概要だけでも分かる資料を入れて欲しかったです。
8.	女性	50代	すみやすい町作り、そのためには、いろいろな税金を安く、田舎の美しい光景と高齢者が増加する中、楽しく過ごしていける町だったらいいのになと思います。
9.	女性	70代以上	もういい年齢になりました。社会や生活様式がすっかり変わりました。子どもの頃は食べる物がなかった。親は大変だったと思います。その上家族が多かったのです。
10.	女性	60代	宇治田原町に住みたい！！と思わせるまちづくりをしてほしい。自然が多いだけでは人は集まらない。お店を充実させてほしい。年を取っても車ではなくバスなど(無料)に乗って、なんでも揃う大型スーパーなどがあればいい。
11.	女性	60代	他人が他人らしく生きていく。責任を分かち合える。そんな社会の実現をめざしていく。
12.	女性	50代	保育所の子供が満員にならないように施設の拡充や保育士を増やすなど行政ができることは多々あると思います。「男女共同参画のためのまちづくり」を本当に考えるのであれば、スタッフも男女同数にして、意見が片寄らない工夫が要るのではないのでしょうか？まずは人口を増やす努力も必要だと思います。高校生のバス定期代を大幅に削減したり益々魅力のない町作りになってきていると思います。

13.	女性	70代以上	<p>この種のアンケート無作為で抽出しているとあるが、当方の場合、いつも回ってくるので本当に無作為なのか返信用封筒に番号が打たれている。本人特定されるのではないかと。</p> <p>役場職員の家族から結婚離婚等の情報がもれている。私も経験した。今回のアンケートには関係ないが、公務員の守秘義務は厳守して頂きたい。宇治田原以外の職員をもっと採用しないと？攻の発想発展に期待できない。</p>
14.	女性	30代	<p>人口減少と高齢社会を迎えつつある時代ですが、女性が自分らしく楽しく活躍できる町政を期待しております。ありがとうございました。</p>
15.	女性	70代以上	<p>宇治田原町は自然環境に恵まれていたのに、森林の伐採等が無許可で行われていると聞く。少子化が進んでいる。少子高齢化対策に町は力を入れるべきだ。町民の声を生かして欲しい。</p>
16.	男性	40代	<p>新しく引っ越してきた若い人に参加してもらいたい。年寄りばかりだと、中年がつらい。</p>
17.	女性	40代	<p>男、女の問題ではなく、個人個人が働きやすい、生活しやすい、各々の得意分野で活動しやすい社会作りをしていくのがよいのでは。今まで男が稼いで、女が家事、育児をしていたのは、現在は成り立たない。共働き家庭が圧倒的に多いのに、賃金は増えず、税金ばかり払って老後の安心なく、女が働きにでると言うことは、仕事以外の負担が増えているだけ。ライフスタイルにあわせた働き方が出来るように、男女関係なく、時短や有休、育休、介護休憩を取得できることが当たり前の中の世の中にならないといけない。</p>
18.	男性	50代	<p>政治的主張のみを目的とするジェンダーフリー政策は必要ありません。道徳教育をしっかり進めれば、男女はおのずから助け合い、それぞれが活かされる社会になります。それが日本にいちばん合うやり方です。なんでもグローバルスタンダードでやればよいわけではありません。今回のコロナがその誤りを私たちに教えています。</p> <p>消費税はゼロにすべきです。日本は通貨発行権がある主権国家です。財源は通貨発行でいくらでも賄えます。日本は財政破綻などしません。</p>
19.	女性	70代以上	<p>越して来た者は中々入っていけない。だから、いつまでも昔の殻を破れない。共同参画と言いつつ無理に知識、広い視野もたない人を参加させる事もない。</p>
20.	女性	40代	<p>このようなことがある事をあまり知らなかったです。</p>
21.	女性	70代以上	<p>80才近いですので、これからもよろしく願います。色々の件についても。</p>
22.	女性	70代以上	<p>これからこの地区も高齢者が増えます。地区のすみずみまでの公共の足がほしい。</p>
23.	男性	60代	<p>特に案はありませんが、田舎で閉鎖的な地域な為、意識改革に向け、様々な活動に頑張ってください。</p>
24.	女性	60代	<p>行政施策のみでなく、地域での取組においても女性の力をもっと活用すべきである。ムラ型社会特有の男性偏重の傾向が強く残っている感が強い。町全体を活性化するための施策や商業施設の誘致などを通して魅力ある町づくりを行って欲しい。</p>
25.	女性	30代	<p>保育施設の数を増やしたり、学童保育の時間を伸ばしたりしてほしい。</p>
26.	女性	40代	<p>コロナの時代なので、ネットでライブしたりして、外で行っていた行事を全てオンラインやメールにして顔を出さなくても言いたい事を言えるようにしてはどうでしょうか。</p>
27.	女性	40代	<p>このようなプランがあることも知りませんでした。これから娘が田原で結婚、子育てもしていくので、仕事をしながらでも子育てできる環境をつくらせていただきたいです。娘は田原で子育てはしたいが、高校生になった時、交通費がかかり過ぎると、バスの時間が無いことで迷っているようです。</p>

28.	男性	50代	女性が活躍できる宇治田原町を目指すには、男性に片寄った古い制度や地域の仕組みを変える必要があります。その上でやる気のある女性を育て、町のいろんな分野で活躍していただく。男性でないとだめという考えをどうすれば、どう変われば女性でもできるのかと意識を変える必要があります。
29.	男性	70代以上	審議会の男女の数を同じにするとか、女性の管理職を多くすることなどが男女共同参画のベースになっているみたいだが…わからないところがある。
30.	女性	70代以上	高齢者の多い宇治田原では、なかなか難しい問題です。守りに入って生活している自分より、40才代、50才代の方を多く(人数)アンケートしていただきたい。